



第 96 号

公益財団法人 黒田奨学会

総裁 黒田長高 様 近況報告

「山笠そして御着」

総 裁 黒田 長高



令和5年も昨年に続き長政公400年関連の行事に参加してまいりましたが一番のトピックは、娘婿の祐大氏が博多祇園山笠祭りに参加し、「中洲流れ」において台上がりをしたことです。このことは第94号の瑞藤会報にも掲載されていたので皆様ご存じかと思います。私の訪福は例年通り2月の忠之公の法要から始まり3月の如水公の法要、当黒田奨学会の入学式及び卒業記念会と続きました。この時点ではまだ山笠の台上がりのことは決まっておらずまさか祐大氏が台上がりできるとは思っていませんでした。しかし5月になりこの話が本当に実現することとなり本人も感激したようです。この台上がりのためにご尽力戴いた方には黒田家として大変感謝しております。そして台上がりの前日には「播磨の黒田武士顕彰会」の方々等もお招きし、藤香会を中心とした皆様に歓迎会を開催していただき、黒田家第17代目としてお披露目をする事になりました。そして翌日の台上がりを含め、その後の直会、当黒田奨学会の理事の有志の皆様との歓迎会と彼の顔を覚えていただけたのではないのでしょうか。また福岡市博物館、修猷館を訪問し挨拶をして参りましたがいつの日か私に代わって黒田家17代目として皆様の前でお話しすることになると思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

さて私は本年も3月に黒田奨学会の入学式・卒業式へ出席し、奨学生の皆さんの希望に満ちた顔を拝見し、彼らの今後の活躍に期待を寄せております。

その後例年通り4月29日には御着^{ごちやく}に向かい、小寺大明神社・黒田家廟所の法要に向かいますがいつも思うのはこの法要の際は黒田家からは私一人だけしか参拝者がおらず寂しい限りです。御着の廟所に祭られているのは官兵衛の祖父「重隆公」とご母堂の五輪塔ですが毎年この法要には姫路市長が駆けつけて戴けるのはありがたいことです。法要の後には直会（懇親会）が催されますが小寺家・天川家の方がほとんどでもう代替わりをされている家もあり参加していただけるだけでもありがたいと思っております。これも主催者の「御着史跡保存会」の皆様のご尽力によるものですがこの「御着史跡保存会」は何と今年50周年を迎え、また大河ドラマ以前より地元の小学生によるボランティアガイドも10年も超えるそうで御着の皆さんのこの地を愛する心意気には頭が下がります。今年は「播磨の黒田武士顕彰会」から2名の方が参加され直会の後に姫路の廣峯神社へ案内して頂き、境内にあります官兵衛神社への正式参拝をして参りました。



私も年を重ねてまいりましたが、まだまだ元気に過ごしており、それなりに体には十分に気を付けているつもりです。瑞藤会の皆様も健康管理には充分気を付けて戴き、これからも元気な顔を拝見できる日を楽しみにしております。



黒田家廟所の五輪塔

目 次

総裁 黒田長高 様 近況報告「山笠そして御着」

総 裁 黒田 長高

黒田奨学会 OB 通信

「自分の役割と身の丈を知る生き方」

東京医科歯科大学名誉教授
(医療法人) 光恵会光山医院山口院長

北嶋 繁孝 …… 1

修了および卒業に際しての謝辞

博士・修士課程修了生より …………… 6

学士課程卒業および修士課程入学生より …………… 8

新奨学生より …………… 15

トピックス …………… 34

奨学生近況報告 …………… 34

行事報告

令和5年度 奨学生卒業記念会 …………… 36

記念講演 …………… 38

令和6年度 奨学生入学式 …………… 39

令和5年度 関東地区研修会 …………… 42

公益財団法人黒田奨学会への寄付御礼 …………… 45

令和5年度奨学会基金への寄贈者 …………… 45

令和6年度 黒田奨学会行事予定 …………… 46

関東地区研修会・発表抄録集 …………… 47

編集後記 …………… 49

「自分の役割と身の丈を知る生き方」

東京医科歯科大学名誉教授
(医療法人) 光恵会光山医院山口院長
北嶋 繁孝

皆様、初めまして。私は、昭和46年より52年まで黒田奨学生としてお世話になり、今回OB通信を執筆する機会を頂きました。黒田家代16代当主長高公と、理事長伊達健太郎様には、あつく御礼申し上げます。

私は昭和46年、福岡県立朝倉高校を卒業、九州大学医学部に入学しました。その際、高校の恩師杉先生からお話をいただき、黒田奨学生として卒業までの6年間、援助を頂きました。卒業後は、九州大学第一内科に入局しました。



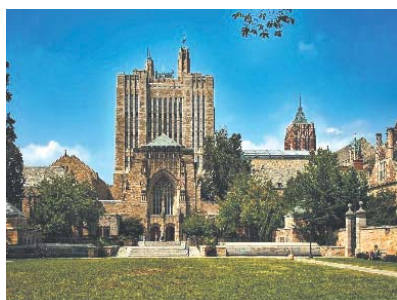
自身の振り返り

第一内科は、「研究の1内科」と呼ばれ、これまでの10名の教授のうち4名が学士院賞を受賞しております。研究室は、循環器、血液、感染症の他に、ウイルス、遺伝、心理、生化学、細胞培養など、基礎あるいは手法を冠した名称で、臨床の教室として何をやってるのと思うでしょうが、理念は、内科たるもの医学をサイエンスとして学んだ上で患者を診る専門を身につけなさいということでした。

私は、遺伝・血液・生化学グループで学び、九州大学大学院とテキサス大、エール大の留学を経て東京医科歯科大学の難治疾患研究所で、ゲノム医学と難病の研究に携わりました。私が30代に関わったmRNA転写の基礎研究が、新型コロナmRNAワクチンや、siRNAなどmRNA核酸医薬への応用へと進み、ゲノム医学も、がん、難病から生活習慣病へと広がっています。写真は、最近の東京医科歯科大学ですが、この10月に東工大と統合して東京科学大学になります。



私は、エール大学人類遺伝学教室（SM Weisman教授：写真下左はYaleのキャンパス、中央は教室がある医学部エントランス）で、遺伝学の基礎研究を始めました。手法も異なり2年間全くのNo paperでしたが、帰国後もその課題の研究を続け、競争が激しかった基本転写のクローニングを日本から発表できました。右は、Yaleの医学部図書館で、私の研究室のすぐ近くでしたので、実験がうまく進まずクサっているときは、よくここで時間を潰しました。目をつむって実験のやり方など黙考したり、居眠りの場でもありました。



2000年には、ヒトゲノムのドラフトを当時のクリントン大統領が発表しましたが、その隣には長身のNIH DirectorのF. Collinsが立っています。彼はエールの同じ研究室出身で彼の実験台を私が引き継ぎました。その実験台に座っているのは、私の妻の晶子です（写真右）。



東京医科歯科大学での経験

難治疾患研究所は、「難治疾患の学理と応用」という“難治疾患”を標榜するわが国唯一の国立大学法人附置研究所です。その教員は、医学部教員の3つの任務「診療・教育・研究」のうち、もっぱら大学院教育と研究に携わっています。医学系、非医学系の大学院修士、博士課程学生を教育し、主たる任務は、オリジナルで高いレベルの医学、生物学研究です。

教授として赴任してすぐ、国立大学法人化と大学院重点化の波が押し寄せました。私は、所長や附置研究所生物医学系の会長を務める巡り合わせだったこともあり「共同研究拠点」や、若手人材育成プログラムなどに取り組みました。その奮闘の詳細は、私の同窓会報の転載記事を読んで下さると幸いです。

東日本大地震3.11

2011年3月11日14時46分、東日本大震災が発生しました。その時、私はお茶の水橋方向に向かって構内を歩いていましたが、ゴーっという地響きに、周りの人とこれは違うぞと顔を見合わせ、続いて立っておれないほどの強い揺れに襲われました。大手町の方を見ると、建築中のビルのクレーンが大きく左右に揺れています。私は上京したばかりの娘が心配で江東区の越中島住宅に早めに帰ったのを覚えています。この東北の地震と津波、福島原発のメルトダウンによって、余震による酔い症状と重なって異常な毎日が長く続きましたが、人生の中でとても痛い経験です。

大学人の対応

地震直後、私は東北大学の親しい友人にメールで様子を尋ねたところ、研究室機器が大きく滑った被害を話しながらも、「今後は東北のために頑張ります」という返事でした。その彼は、今も東北メガバンク機構長として活躍中です。また、東大アイソトープ室長をしていたK教授は、福島原発メルトダウン直後から、毎週末に南相馬市の除染に行かれたそうです。大学人も、それぞれの任務を果たそうとしていたのです。当時、私は附置研究所の医学生物学第2部会長も務めていて、年末には、東北大学加齢医学研究所の80周年記念講演会に出席しました。祝辞を述べた翌朝、「被災地を見てみよう、行くのは今しかない」と思い立ち、学術講演会を欠席して石巻に向いました。家屋のほとんどの1階が、津波によって壊された状態でした。日和山という高台に上がり、北上川上流に打ち上げられた船や海側の病院の無残な姿を目に焼き付けてその場を離れました。

東京に戻って、復興ボランティアに参加しました。夕方に品川集合、ボラバスの車中泊と雑魚寝の2泊3日で亘理町のイチゴ農家のお手伝いをしました。亘理町は、震度6弱の揺れと町面積の約半分が浸水したのです。もう何度も足を運んだという女子や父親と娘さんなども参加されていました。

ボランティア最終日の習合写真の前列中央の白い帽子をぶっているのが私です。



最後に

私は、国内外の複数の場所に身を置いて、時には自分の力を超えるように生きたこともありましたが、自分の殻を突き破るほどには強くは生きていません。身の丈にあった生き方だと思います。医学に限らず、異種の領域の方、異なった文化背景を持った外国の方と知己を得たのはご褒美かと思います。今は、医師を目指した時の初志である他人に寄り添える医療人を目指しています、「浄化人心、小欲知足」：「Purify your mind by curving desire、Refine your community with kindnessを念じながら。

今更のように、これまで慌ただしく動いた時や落ち込んだ時の私を支えてくれた妻と、父親として十分な時間を一緒にできず我慢させることが多かった娘に心から感謝しています。これからの時代は、「働き方改革」、「男女共同参画」、「多様性」の時代です。若い方には、自身の夢と同じくらいあるいはそれ以上に周りの人を大切にして、スマートな生き方を模索していただきたいものです。そして、古臭いですが、「世のため人のため」という想いがあれば最高だと思います。

略 歴

昭和52年3月	九州大学医学部卒業
昭和57年3月	九州大学大学院（臨床大学院・内科系）修了・学位取得
同年9月～昭和59年12月	テキサス大学サウスウエスタンメデイカル校ボスドク
昭和61年1月～平成6年8月	東京医科歯科大学難治疾患研究所助手・助教授
昭和61年2月～同62年9月	エール大学人類遺伝学リサーチアソシエイト
平成6年9月～同9年3月	九州大学医学部検査医学助教授
平成9年4月～	東京医科歯科大学難治疾患研究所教授（ゲノム応用医学）
平成30年3月～	東京医科歯科大学退職、東京医科歯科大学名誉教授

泰山
山
歴
訪



北嶋 繁孝
医療法人光恵会
光山医院山口・光の郷
(九州大・昭52卒)

難研50周年を機に

私は、33歳で難研助手としてスタートし一時母校の九大に異動した以外は、退職までほぼ30年お世話になりました。泰山をWikipediaで調べると、中華山東省にある道教の聖地五岳のひとつで、「どっしりと安定していて、ものに動じない様子のたとえ」とあります。私は、まだ煩惱に明け暮れていますが、ここでは昨年末の50周年記念会を機に感じたことを思い出してみます。

1) 医科歯科での mRNA 基本転写装置の研究

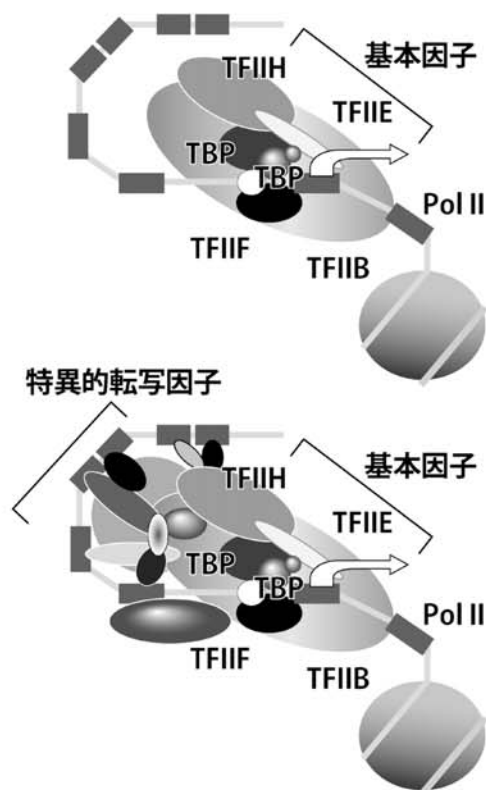
私の主な研究は、30代のRNAポリメラーゼII転写基本因子の研究です(図)。R.KornbergはPol IIの構造解析でノーベル賞をもらいましたが、基本的な転写開始を起こす因子がいくつ必要で、それらの顔つきを同定する目的でした。R.Roeder、P.ChambonやR.Tjianなど転写制御の世界の一流のラボが取り組んでいました。私は難研の安河内教授

(当時)の元で、基本因子の1つをクローニングし本学からnatureに発表出来ました。その後、彼らとの交流も始まり、内科医の私が研究の道を選んだ契機になりました。昨年、新型コロナmRNAワクチンの基盤技術でK.KarikoとD.Weissmanがノーベル賞を受賞しましたが、新たな発想と技術によってmRNA医薬が発展するのを楽しみにしています。

2) 人材育成テニュアトラックMTTの 大成功

大学法人化の頃、難研は支援室をつくり受託解析を開始しました。これは、2009年の「難治疾患共同研究拠点」や、教育部・研究部の「大学院教育支援室」として大変良く機能し難研には若い世代が増えましたが、私の心に最も強く残っているのは、2006年から5年間の

PolII装置：遺伝子発現の基本装置(上)と
制御された転写(下)



メディカルトップトラック(MTT)です。

MTTは、「若手研究者の自立的研究環境促進」という日本版テニユアトラックです。私が所長を終える際に同窓会報に書きましたが、文科省の評価は、優秀なMTTフェロー16名を育てるのは挑戦的ではあるが、ポストが準備されていない制度上の不備があるとかかなり低いものでした。そのためか、昨年の50周年記念祝賀会では台本にはなかった「MTT失敗発言」をうっかり口にしてしまいました。ですが、10年経った今では、テニユア取得率100%、教授7名(本学医学部含む)、准教授4名、講師1名、PI3名で全員が職位を上げ実は大成功です。MTTフェローを受け入れた難研の全分野の尽力の賜物ですが、特に、仁科難研所長、古川大学理事、小川九大教授(いずれも現職)は、それぞれ「いい友人関係が出来た」、「今の大学テニユアトラックの参考になった」、「星の王子様もいちばん大切なことは心でしか見えない」と言ってくれています。MTTフェローを「Free & Flatに加えRespect」する環境で育成できたおかげだと思います。

難研は、本来研究特化型組織ですが、若手育成は誇っていい研究者教育の成果であり、50周年を機に私のトラウマはすっかり解消されました。そうすると、次は私の泰山への道です

3) かかりつけ医としての自分磨き

大学を辞した後は、実家の医院と縁戚の医院で臨床医として働いています(写真)。一般内科を学びなおし、医師会の夜間診療や休日当番もこなし(一応ですが)、地域医療構想委員を務め(何故か指名され)、放送大学でゲノム医学の講義と健康講話をやり(これは昔取った杵柄)、コロナ禍では、集団接種と感染対応に汗をかきました。認知症サポート医の資格をとり、仲間や市職員と一緒に認知症カフェ、市と患者家族、開業医との橋渡しもやっています。神経化学が専門の友人

からは、専門じゃないのに下手したら訴えられないの?と心配されました。いえいえ、認知症の難しいところは神経内科や精神科の専門医にお願いしますが、国は、オレンジドクターやサポート医を増やしてかかりつけ医の関与を促しています。

70歳を過ぎ年男になり、前期高齢者の半分の折り返しました。週3日のジム通いでストレッチ、ヨガやスイミングをやりながら、心の中で「まだまだやりたい、やれる」と言い聞かせながら、いつか「お疲れ様でした」と言われるまで続けたい。過剰に交感神経を緊張させることなく、人の話に傾聴し、気を長く持って、お酒はほどほどにして脳を守りながら。

ここまで読み返してみると、まるでレポートみたいで、格調高いエッセイには遠く及ばず恥ずかしい限りですが、10年後には泰山っぽくなった自分でありたいと願いながら筆をおきます。今後も、東京科学大学になった後の難研、本学を楽しみに見守りたいと思います。



実家と職場



修了および卒業に際しての謝辞

【博士・修士課程修了生より】



長岡技術科学大学大学院工学研究科・修士課程修了 東 遼晴

この度、長岡技術科学大学大学院 工学専攻 機械工学分野を終了いたしました、東遼晴と申します。私はこの大学へ3年次編入し、学部3年から修士を卒業するまでの4年間、研究活動に集中することができ、多くの成果を挙げることができたのは黒田長高様をはじめとして、黒田奨学会に携わるすべての方々のご支援のおかげであり、このことにつきまして心から感謝申し上げます。

私は大学へ進学するにあたり大きな目標を抱えておりました。それは「活動範囲を海外へ広げる」ことです。そして、修士2年の6月からの約一ヵ月、イギリスのヨーク大学へ研究訪問することができました。更には、国際学会へ参加するために約1週間中国へ行くことができ、目標を達成することができました。また、私は令和3年度に黒田奨学会へ入学し、その頃はコロナウイルスが猛威をふるっておりました。黒田奨学会の入学式も必要最低限の少人数での開催であったのを今でも覚えております。その後も、コロナウイルスの猛威は治まらず活動の範囲に限られるといった状況であり、このような環境下で目的を達成することができたのは黒田奨学会からご支援をいただいたことで研究活動に集中できる環境を提供していただき、早い段階で多くの成果を挙げることができたためです。そのため、黒田奨学会からのご支援がなければ、ここまでの経験を得ることは不可能でした。

4年間の研修会では毎年様々な分野の発表があり、新たな知識を身に付けることができるため楽しみにしている半面、自身のこれまでの研究内容を黒田奨学会の方々へご報告する場として、4度目の参加時でさえ緊張しておりました。そのため、私の中で毎年11月頃になると関東地区研修会のことを考え始め、気持ちが落ち込むといったことがおきるのですが、この研修会に参加し毎年その緊張を経験し乗り越えることで、国際学会の口頭発表では緊張せずに堂々と説明することができました。更には、黒田奨学生の発表資料の作成技術の高さに驚愕し、その技術を勉強させていただきました。

4月からは、工作機械を開発する技術者として働くことになりました。そこで、私は「これからの工作機械業界をリードする新たな工作機械」の開発を行う部署で働きたいと考えております。また、新たな目標として社会人博士制度を利用した博士号の取得、海外拠点の駐在などを検討し更なる目標を成し遂げられるよう邁進してまいります。

末筆ではございますが、黒田奨学会の益々のご発展、ならびに皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。4年間、ご支援及びご指導していただき、本当にありがとうございました。

九州大学工学府土木工学専攻修士課程修了 小山田 莉緒

私はこの度、九州大学工学府土木工学専攻を修了致しました。黒田奨学会の皆様には、学部4年間を含む6年間にわたり、多大なるご支援とご指導を賜りまして、心より感謝申し上げます。私が充実した学生生活を送ることができ、大学院を無事修了できたことは、黒田奨学会のおかげです。

黒田奨学会での6年間を振り返りますと、最も印象に残っているのが、研修会です。大学1年生で最初に参加した研修会にて、奨学生の先輩方の発表を聞き、あまりのレベルの高さに圧倒されたことを今でも鮮明に覚えております。このように研修会は、奨学生の発表を聞いて刺激をもらえる貴重な機会でした。また、多方面の分野の発表を聞くことができるため、自分の興味を広げることができる場でもありました。その一方、様々な専門分野の方々が集まるため、自分が発表担当の時には、文系の方や土木にあまり興味がない方々にも理解してもらうためにはどうしたら良いのか毎回試行錯誤して

おりました。この経験が自分を大きく成長させてくれたと感じております。金銭面だけでなく、このような貴重な機会をいただきましたこと本当に感謝しております。

大学での6年間を経て、入学した時から持っている「自然災害から多くの命やまち全体を守ることで社会貢献したい」という思いは、さらに強くなったように感じます。私は4月から福岡市役所に土木職として就職致します。土木技術者として、安全で住みやすいまちを実現するために、災害に強いまちづくりに尽力してまいります。

最後に、黒田長高様をはじめ、黒田奨学会に携わっていらっしゃるすべての皆様に重ねて感謝申し上げます。この感謝の気持ちを忘れず、社会貢献のために日々精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。6年間本当にありがとうございました。

九州大学経済学部経済システム専攻修士課程修了 庄田 朋申

この度、九州大学経済学部経済システム専攻修士課程を早期修了しました。修士課程の1年間に渡り、多大なるご支援とご指導をいただいた黒田奨学会の皆様には心より感謝とお礼を申し上げます。

黒田奨学会の支援のおかげで、「お金を稼ぐため」のアルバイトではなく、「好きなことをするため」のアルバイトに従事でき、たくさんの優秀な学生に出会い、視野が広がりました。九州大学附属図書館ティーチングアシスタントの仕事において、各分野で研究を極めていく修士・博士学生の方々とイベントを企画し、実行することで、学際的な垣根を超えた交流ができ、非常に良い刺激になりました。

また、黒田奨学会の研究支援奨学金や短期海外研修支援奨学金のおかげで、各種国内・国際の学会やワークショップに参加することができ、優秀な研究者たちと学術的なコミュニケーションを深めていくことで、研究力を向上させることができました。特に、学会の学生部会では、同じ分野の同年代の若手研究者との交流が深まりました。

さらに、黒田奨学会の研修会では、触れることの少ない分野の発表はいつも勉強になります。また、専門分野が異なる相手に自分自身の研究をわかりやすく伝えるなどの発表の技法をたくさん勉強できました。特に、黒田奨学会の研修会や懇親会や総会を通して、理事や教育担当の先生方をはじめ、瑞藤会の皆様との繋がりがさらに強くなり、非常に心強かったです。

今年度は、九州大学経済学部経済システム専攻博士後期課程に進学し、環境経済学を専門とする研究者を目指しています。今後も、黒田奨学会での出会い、黒田奨学会のおかげでできた出会いを大切にしながら、社会貢献できる研究をし続けていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

九州大学薬学部創薬科学専攻修士課程修了 藤本 茉奈

この度は、大学院卒業に当たり、2年間にわたる多大なるご支援をありがとうございました。私は、大学院からの採用だったので、短い間でしたが、毎月の奨学金をはじめ、研究費支援奨学金や海外での学会に参加する際のご支援等、本当にお世話になりました。黒田奨学会では、研修をはじめとして、面談や懇親会等、学生同士や理事の皆さんとの交流が多く、他分野の方ともお話ができたので、自分の見識を広めるという点でも本当に勉強になりました。特に、年に1回の研修会では私のプレゼンに対して皆様からの質問を頂き、改めて基礎的なことを考えたり、さらなる研究計画の種にさせていただいたりすることで、自分の研究についてさらに考え、発展させることもできました。この経験は、研究室での報告や学会発表にも役立ちました。今後社会に出た後も大きな財産になると考えています。

私は、4月から、製薬会社の開発職として勤務いたします。今まで薬学部で学んだことを基に、実際に製薬の現場ではどのようなことが行われているか学びたいと考えています。私の業務は、おもに現場の臨床試験の計画を立てたり、遂行したりすることです。製薬の業務の中でも大事なプロセスであり、仕事にある程度慣れてからは、ひとりでも多くの患者様を救うことができるように、黒田奨学会でも

学んだ社会貢献の精神を忘れずに、尽力したいです。私は、今後海外でも活動したいと考えており、そのために仕事でもプライベートでもたくさんの経験を積むことも目標のひとつです。また、初めて関東圏で生活するので、今までとは生活スタイルがかなり変わってくることに若干の不安はありますが、持ち前のポジティブさを存分に生かして乗り越えていきたいです。

九州大学大学院生物資源環境科学府修了 松井 優樹

この度、九州大学大学院生物資源環境科学府を修了いたしました松井優樹と申します。黒田長高様をはじめ黒田奨学会のみなさまには2年間、ご支援、ご指導頂き大変感謝しております。私は、大学院特定枠の1期生として黒田奨学会に採用いただきました。私は、大学院の2年間、緑茶に含まれる成分Xが老化により衰える脳機能を活性化する作用とそのメカニズムについて研究を行いました。私は、祖母が認知症を患った際の経験から「人生の最期に自分の人生を振り返ることのできる幸せ」を世界中の人に提供したいと思い、大学院での研究に励みました。黒田奨学会の皆様のご支援により、研究活動に集中して励むことができました。本当にありがとうございました。

また、黒田奨学会では、研修会を実施していただき、大学の研究を行うだけでは経験できない、専門分野の違う方に研究を発表する機会をいただき、専門外の方に研究を伝える経験をさせていただきました。さらに、全く異なる分野の方の研究発表を聞き、とても知見が広がるとともに、自分もさらに頑張ろうと思えました。奨学生の皆さんとの交流もとても刺激になりました。コロナ禍でなかなかお会いすることはできませんでしたが、最終年度では、対面での研修会も再開され、後輩の奨学生の皆様との交流ができとても良い刺激を受けました。来年度からも奨学生の皆さんは奨学生同士積極的に交流してほしいです。

来年度からは、サントリーホールディングス株式会社で基盤研究に従事します。これまで大学院で学んだことを活かし、これからは商品化することで、世界中の人の健康をサポートすることで社会貢献していきたいと思っております。来年度からも積極的に研究活動に取り組み、社会貢献できる人になれるよう精一杯精進してまいります。また、これからは、黒田奨学会の皆様から受けた御恩は、黒田奨学会だけでなく社会に還元していけるよう頑張っていきます。

改めまして、この2年間ご支援いただき誠にありがとうございました。

【学士課程卒業および修士課程入学生より】



東京大学文学部卒業 井手 那幹

このたび東京大学文学部を卒業いたしました、井手那幹です。4月からは明治安田生命にお世話になっております。配属地は広島県の福山市ですが、この原稿を書いている今、私は東京におります。会社の初期研修の真っ最中だからです。会社の歴史を学んだり、エクセルの使い方を学んだり、班でプレゼンテーションの準備をしたりしています。そこで気がついたのですが、どうやら僕は他の新入社員に比べてパワーポイントを使うのが圧倒的に上手いようです。同期たちから「スライドマスター」という粋な称号を頂きました。悪い気はしません。誰も彼も、初めて僕に話しかける時は、まるで天気の話をするみたいにパワポの話をして。「大学でよくパワポ使ってたの?」と。「いや、大学というよりは」と答えるたびに僕は、黒田奨学会での日々を思いを馳せるのです。「まあちょっと、奨学金のところで、研究内容の報告会みたいなのがあってね……」と。

大学1年生の時、僕は最初の研修会が憂鬱でなりませんでした。まともな研究なんて何もしていないのに10分も何を話せばいいのかと、途方に暮れたのを覚えています。中身は今更どうにもならないから、せめて体裁だけでも整えておこう。そう思って僕は、黒田奨学会の創立百周年記念誌に小田部理事が

寄稿していたプレゼンTIPS集を読み込みました。そこから手軽に実践できそうなものを選んで、いくつかの小細工を施しました。スライドを追う視線の動きに配慮する。表を使う。質問対策スライドを用意する。そして何より僕はアニメーションにこだわりました。「こういう風にスライドを動かせたらいいのに！」という小さな夢（もしくは苛立ち）をモチベーションに、研究を重ねました。

そんな僕の努力とパワーポイントの最新機能の結晶たる「井手那幹(1901)_発表スライド」は、研修会の会場に用意されていた年代物のノートパソコンでは正常に動作しませんでした。幸いにも発表前に気づいたので、アニメーションを差し替えてどうにか動くようにしましたが、その時のことは今考えても冷や冷やします。

肝心の発表はどうだったのか。研究内容は稚拙だし、緊張して話も速くなって、恥ずかしい気持ちが出ていたのですが、思いのほか温かく迎えられました。質疑応答中、質問対策スライドをスクリーンに出したとき、おおっという小さなどよめきが起こったのを覚えています。厳しい指摘もなく、むしろ褒めていただいて、先生方も意外と優しいんだなと思いました。

その後研修会のたび、僕はスライド作成により一層の力を入れるようになりました。僕が大学2年生の時から研修会がオンラインになったのですが、不幸中の幸いというべきか、そのおかげで自分のパソコンを使って発表できるようになりました。パワーポイントの最新機能をふんだんに使って、さらに凝ったスライドを作れるのが嬉しかったです。今見返すとまだまだ詰めが甘いと感じますが、このパワポ研究の経験は、間違いなく今も活かしています。

だから言います。本当は面倒だったし怖かったし大変だったけど、ちゃんと研修会に参加してよかった！

さて、黒田奨学会にお世話になっていたのは、何も研修会のことばかりではありません。お金のことばかりでもありません。近況報告、定期面談、式典、懇親会など、さまざまな機会に先生方や先輩方と言葉を交わしてきました。尊敬の出来る聡明で素敵な人々の中にいて、色々な刺激を受けてきました。だから、と言うのは短絡的かもしれませんが、パワーポイントの扱い方以外にも、きっとたくさんの能力を知らず知らずのうちに身に付けているはずだと信じています。これから先の人生で、またそれを見つけることができたなら嬉しいのですが、そんなに簡単には見つからないかもしれません。それでもまあとにかく、気長にやっていこうと思います。

学業成績が中途半端だったり、進路に迷って留年したりして、たくさんご迷惑をおかけしましたが、いつも温かく見守ってくださり本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

東京大学理学部数学科卒業 大串 裕紀

この度東京大学理学部数学科を卒業し、この4月から同大学大学院数理科学研究科の修士課程に進学することになりました大串裕紀です。黒田長高様をはじめ、黒田奨学会の皆様にご学部生活の4年もの間、多大なるご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げますと共に修士課程の2年間で引き続きご支援いただけますこと、大変お礼申し上げます。

月ごとの近況報告や学期ごとの成績報告の際に自分の進歩を振り返ることができたように黒田奨学会から多くの成長の機会をいただきました。特に毎年の研修会では幅広い分野の発表を聞くことができ、様々な知見を学ぶことができました。私の専攻である純粋数学は研究の動機や結果、手法のほとんどが多くの人にとって馴染みがないものであったため、発表内容を選ぶ段階からよく苦心しました。そのため研修会で他の人の発表を聞いたときに伝え方や資料の作り方など学ぶことが多く、そのたびに自分の至らなさを毎年感じていました。しかし、自分の分野の内容を他人や社会に分かりやすく伝えることが大事であり、社会貢献への第一歩であるという問題意識を培えたことと発表技術を上達することができたと実感しており、良い機会であったと振り返って改めて実感しております。

これまでは既存の結果をフォローすることのみに注力していましたが、大学院生にもなるので今後は論文に繋がる研究に移行していきます。同分野のアカデミアの人から評価される良い研究と発表を

行うこと、自分の研究結果が社会貢献にどのように直接繋がるのかという問いに明確な答を得ること、自身の数理科学のスキル、知見を純粋数学の研究以外に社会に還元する方法を模索することの3つを大学院における目標として掲げて精進していきます。

最後になりましたが、黒田奨学会の奨学生としてあたたかく手厚くご支援、ご指導をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。黒田奨学生として誇れる人間でいられるよう引き続き邁進していく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

一橋大学法学部卒業 加治 遼

3月に一橋大学法学部を卒業し、4月から同大学法学研究科修士課程に進学いたします加治と申します。まず大学4年間の手厚いご支援、そして4月から引き続き黒田奨学会の奨学生として採用していただくことに心から感謝申し上げます。

入学した年の2020年は新型コロナウイルスが世界的に蔓延し始めた頃でした。上京してからわずか1週間で福岡に戻り、毎日大学からの連絡を確認してオンライン授業を受けるという、期待していた大学生活とはかなりかけ離れたものでしたが、そのような状況の中でも黒田奨学会からの奨学金はもちろ度々いただいたメールでの連絡やアンケート等で「自分は一人ではない」という精神的なつながりというものを常に感じる事ができました。

4年間の中で最も思い出に残っているのは昨年の関東地区研修会です。初めて経験する対面形式での開催だったので非常に楽しみにしていましたし、発表も気合を入れて準備しました。実際に対面で聞く発表は臨場感や質問のしやすさがあってより内容が頭に入ってきましたし、2日間の研修会を通して沢山の奨学会の理事の先生方や奨学生の方々と交流することができました。

研修会で身についたのは「わかりやすく説明する能力」や「発表する際の話し方」、「スライドの作り方」もありますが、特に「発表する以上曖昧なところが残らないように調べ上げること」です。実際発表を準備する際に今まで理解していたと思っていたことが実はその半分程度の理解度だったということがよくありました。研修会のおかげで毎回自分の持っている知識をブラッシュアップすることができたと感じています。

大学院ではドイツの中世都市法を研究する予定です。ドイツの都市法は中世においてポーランドやチェコといった現在の東欧諸国にも広まり、各国の法の礎となりました。冷戦終結後に東欧諸国が軒並みEUに加盟したこともあり、現在国をまたいだ研究が進んでいます。私は現在の研究よりさらに遡り都市法の初期の在り方を明らかにし、既存の研究のさらなる発展を目指します。

決して簡単ではありませんが毎日地道に研究を進めて参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

東京大学教育学部教育心理学コース卒業 蒲池 海斗

この度、東京大学教育学部教育心理学コースを卒業いたしました。黒田長高様、伊達理事長をはじめとする黒田奨学会の皆様には、4年間の支援・ご指導ご鞭撻に感謝申し上げます。

瑞藤会総会の際でも申し上げましたが、私の大学4年間、特に後半の2年間は過度な勉強によって体調を崩すことが多く、皆様にご心配をおかけしてしまいました。しかし、その努力の甲斐あって法律と心理の勉強の両立、また研究と院試勉強・実習の両立を成し得たのだと感じております。特に、研究のために読んだ先行研究の量や、倍率7.7倍にも及ぶ院試のための1年間の勉強を振り返ると、とてもアルバイト等に時間を割いていたら賄えない量をこなしていたのだなと実感します。奨学会の皆様のおかげで、勉強・研究に打ち込み、院試・研究の成功へとつながったこと、感謝をしてもしきれません。また、金銭的援助だけでなく、面談における「少しは休んで、息抜きを」という温かいお言葉や、

研修会での発表の機会を設けていただいたことも、4年間を走り抜けることができた要因の一つであり、感謝の念でいっぱいです。特に、発表の場面で緊張をしがちな自分にとって、質疑応答を含め20分の発表機会を毎年設けていただいたことは、ありがたい練習の機会となっておりました。実際に4年次の卒論検討会・卒論発表会で教授陣の前で発表する時に、「奨学会の発表よりも時間は短く、また専門用語も理解してもらえる相手なのだから」と、少し緊張感がほぐれていたこと（当然、専攻の方々と相手に話す、という別の緊張は存在しました）が、研修会のおかげであるな、と今でも印象に残っております。

この春からは、同学部の臨床心理学コースに進学いたします。卒論では男性の家事・育児参加に関連する研究を行なっておりましたが、今後はワーク・ライフ・バランスに研究内容を拡大し、労働環境の改善等を通してより多くの人々が心理的にも生きやすい社会を目指して研究等を続けていく所存です。

大学院修士課程においても引き続き奨学生として採用していただけること、光栄に感じると共に改めて心身の引き締まる思いです。黒田奨学生の一人としての自覚を持つと共に、修士ではご心配をおかけするような事態を少しでも減らせるよう、健康管理にも気をつけながら励んでいきたいと思っております。今後とも、ご支援・ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

京都大学理学部卒業 榎藤 洸人

当時愚かしいまでに視野の狭かった私にはまったく勘付くことすらできませんでしたが、私が高校を卒業した四年前は家庭内の経済状況がかなり不安定になっていた時期だったようです。家に借金があるなか、父が長く勤めていた仕事を辞め新たな仕事を探していたタイミングでした。そうした状況のなかで、私は両親や担任の勧めもあって、黒田奨学会に申し込むこととなりました。

正直なことを言えば、当時、給付奨学金に対しては少なからず心理的な抵抗がありました。結局ある一定のGPAさえ維持すれば、月に何万円もお金が無償で手元に渡ってくるわけです。もちろんこれは社会貢献への投資に他ならないのですが、気持ちとしてはタダほど怖いものはないというか、同じ金額を貸与で借りる以上の恐怖感に駆られることもありました。

今にして思うと、そうした恐怖は正しくもあり間違ってもいた気がします。たしかに、私は給付されるお金に対して不誠実ではありませんでした。何もしないでお金ゲットできてラッキー、なんて全く思いませんでした。ただ、冷静になってみると、奨学金に対して恐怖感を覚えるなんてばかりみたいです。いったい誰が、そんな後ろ向きの気持ちになってほしくて若者を支援するというのでしょうか。

やっぱり私は視野が狭い人間でした。でも最近は、ちょっとはマシになってきていると思いたいです。どちらにせよ、黒田奨学会の支援がなければ私はお金の心配ばかりして大学生活を終えていたに違いないのです。そのことに対する大きな感謝を胸に、今後は頂いたお金を前向きに活用しまくって、もっと自分の成し遂げたい社会貢献にまっすぐぶつかっていける人間になりたいと思っています。

いままでの四年間、本当にありがとうございました。これからの二年間も、どうぞよろしくお願いいたします。

慶應義塾大学理工学部電気情報工学科卒業 佐々木 綾太

この春、慶應義塾大学理工学部電気情報工学科を卒業し、東京大学大学院電気系工学専攻に入学いたしました。父子家庭で父が持病持ちであり、授業料を自費で賄っている私にとって、大学でのびのびと勉強・自分磨きをし、無事に卒業できたのはひとえに黒田奨学会のおかげであります。厚く感謝申し上げます。

私は大学にて、長期インターン、大学の授業を改善する活動、競技プログラミング、外国での1か月滞在等、様々なことを行ってきました。その過程で気づいたのは、私はまだまだ「井の中の蛙」であ

るということでした。大学院に入ってからはその認識を糧に、さらに成長するべく邁進してまいります。

私は優秀な人から刺激を受けたいと思い、内部進学をせず受験して、東京大学大学院に入りました。まだ大学院生活が始まって数週間ですが、その短い期間の経験からでもその選択は成功だったと確信しました。高度で類のない授業や研究、そこで飛び交う学生達と教授の議論など、慶應義塾大学でも見かけられましたが、東京大学のそれは遥かにレベルが違うものでした。そんな環境で勉強・研究できることが私は楽しみであり、誇りに思っています。また、将来就職する学生にとって修士1年生は就職活動の年でもあります。黒田奨学会から頂いたご恩を社会に貢献することで還元するため、就職活動も手を抜かず行ってまいります。

私は大学院で成し遂げたいことがいくつもあります。それを何一つ不自由なく行える環境があるのは、ひとえに黒田奨学会が引き続きご支援くださるからです。重ねて厚く感謝申し上げます。今後とも黒田奨学会が誇れる人物となるため精進していく所存ですので、引き続きよろしくお願いいたします。

東京工業大学工学院経営工学系卒業 實 瀧 有 佑

この度私は、東京工業大学工学院経営工学系を卒業し、同大学同学院の修士課程に進学が決定しました。黒田奨学会には、経済的な支援だけではなく、様々な面からの支援をいただき、言葉に表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。

大学入学までは、熱中していた競泳・水球と、主に学校の勉強しかしていなかった私にとって、学士過程4年間は、自分の人生の新章ともいえるべき4年間でありました。様々な人や機会・生活に触れ、新型コロナの蔓延があったとはいえ、毎日が真新しい日々でした。その中で、今回は私にとって最も大きな学びについて紹介します。それは、批判的思考の大切さです。

私がこの学びを得たきっかけとしては、一人の先輩Aさんとの出会いでした。Aさんは、一言でいうと、何事にも「なぜ？」を欠かさない人でした。まず、私はよくAさんに専門分野に関する相談をしていたのですが、その際に真っ先に出てくる言葉が、「なぜその方法を選んだのか」、「この手法を使うことで何が嬉しいのか」でした。これらは研究には当たり前に必要な思考ですが、これらに加え、授業やゼミの内容や在り方、さらには学校システムや世の中の様々な出来事に関しても細かく考察し、「何でこのやり方なのだろう、もっとこうすればいいのに」というような会話がよく出てきました。実際にAさんは、私が思いつかなかったような効率的な方法で課題をこなしたり、時には教授に助言をしたりしていました。こうしてAさんと日々一緒に過ごすうちに、自分には批判的思考の広さ、深さがともに足りていないということを痛感しました。自分の想像よりはるかに身近なことから、受け入れる前に一度自分で考え、その事柄の背景にあるものを考察することで、物事がまだまだ改善される可能性があったのです。

私は大学に入り、以前よりは能動的学習ができていると思っていました。しかし、もっと深い批判的思考を持ち、身の回りを見渡すによって、より能動的な学習ができたはずだと振り返っています。とても基本的なこととはいえ、自覚したことは私にとって大きな気づきでした。私は将来、データサイエンティストとして経営的課題解決をして社会貢献をしたいと考えています。これから始まる2年間の修士課程では、更に様々な事柄に批判的思考を持ち、将来は幅広い課題を解決することで社会貢献したいと思います。

熊本大学工学部物質材料工学専攻卒業 檜 木 野 介 子

この度、熊本大学工学部物質材料工学専攻を卒業しました檜木野介子と申します。黒田奨学会の皆様には、久留米高専を卒業し熊本大学に編入してからの2年間、金銭的な支援のみならず、面談や研修会などにおいて多大なるご指導ご支援を頂き心より感謝申し上げます。

私は、黒田奨学会の奨学生採用面接の場で、老朽化した橋梁の一部をアルミニウムと樹脂で代替する補修法を確立し、持続可能な社会の実現に貢献したいという思いを伝えました。卒業後、熊本大学に編入し研究内容は、生体材料として用いられているチタンの新材料の評価へと変わりました。しかし、この新材料が製品化することで、従来のチタン材料よりも生体安定性、生体適合性を有した医療材料として利用することができます。ものづくりにおいて必ず必要となる材料という分野から社会を支えていくという思いは現在も変わらず持っております。

黒田奨学会の研修会では、先輩はもちろん同級生の奨学生の方たちも非常に優秀で自分の研究に熱意を持ってプレゼンしていたため、私も研究に対して身を引き締めより真摯に向き合おうと決意するきっかけとなりました。また、他分野の研究に触れることで考えに広がりを持つことができました。自分が発表する際には、異なる分野の方たちにわかりやすく伝える方法について苦悩しましたが、講義や卒業論文発表において見やすいスライド、伝わりやすい説明を考える際の基礎となり自分を成長させた非常に有意義な経験でした。

4月からは、熊本大学自然科学教育部物質材料工学専攻の修士課程に進学します。これから引き続きのご支援に見合うように身を引き締め、黒田奨学会から頂いた奨学金、研修会などのご支援を社会貢献という形で繋げられるよう勉学に励んでいきたいと考えております。

それでは、今後の黒田奨学会のますますのご発展と皆様の御健康を祈りまして、謝礼の言葉とさせていただきます。

東京大学工学部物理工学科卒業 松田 仁

この度、東京大学工学部物理工学科を卒業しました松田仁と申します。4年間にわたるご支援、本当にありがとうございました。黒田奨学会からの経済的なご支援のおかげで、アルバイトに明け暮れることなく学業に専念することができました。心より感謝申し上げます。

移転前の事務所での採用面接が4年以上も前であるとは信じられません。歳を重ねると時間感覚が早くなると言いますが、大学入学と共に始まったコロナ禍がこれに拍車をかけたように思います。大学1、2年生の間はキャンパスに足を踏み入れることはほぼ無く、講義のため毎日キャンパスへ通い始めたのは大学3年生になってからでしたが、このイレギュラーな大学生活は非常に充実したものでした。「自身にとってストレスがなく成長が見込めない環境」をコンフォートゾーン、「新たなことにチャレンジしなければならない環境」をラーニングゾーンと呼ぶのですが、私の学部生活はまさにラーニングゾーンで過ごしたものでした。

奨学生生活も同様に、ラーニングゾーンの中で自らを律するものでした。毎年の関東地区研修会では「いかにして専門外の人に自分の研究を分かりやすく伝えるか」という点に苦しみ、何度もスライドを作り直し、発表練習をしました。また、全く知らない分野の発表を聞いて、毎回新たな知見を得ることができました。学期末の報告書では、過去半年について内省し、これからの自分について考える機会を作ることができました。元来として自堕落な私が大学4年間を通して成長できたのには、このような黒田奨学会の行事があったからだと思います。ありがとうございました。

2024年度からは東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻に進学し、物性理論の研究をします。将来の応用への礎になるような研究ができればと考えています。最後になりますが、4年間ご支援していただき本当にありがとうございました。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大阪大学理学部物理学科卒業 山田 和輝

この度、大阪大学理学部物理学科を卒業した山田和輝と申します。まず初めに黒田奨学会には4年間もの間、月々の給付奨学金のみならず定期的に開催される各地区の研修会や近況報告など多大な支

援を賜り大変感謝しております。

私が大学に入学した2020年は新型コロナのパンデミックが始まった激動の年であり、大学に通えなかったり対面での活動が制限されたりしたことが印象に残っています。そんな中、黒田奨学会は迅速な特別奨学金の給付や各奨学生への気配りをしてくださいました。黒田奨学会が本当に奨学生に対して、心身を健康に保って大学生活を有意義に送り、将来は立派に社会へ巣立って社会貢献してほしいという願いが伝わってきて4年経った今でも鮮明に覚えています。

また仕方ないことではありますが、最初の3年間の関西地区研修会はオンラインでの開催となったことを残念に思っていました。やはり対面で他の奨学生の発表を聞いたり、コミュニケーションをしたりすることは参加した奨学生全員にとって非常に刺激的であることを確信していたからです。しかしそれでも自分の学習と関連する分野だけでなく、文理の壁を越えた研修は他の奨学生と自らの学びを共有する貴重な機会であると同時に、PowerPointの作り方や発表スライドの構成の仕方など学ぶことがたくさんありました。4年目からは念願の対面での研修が始まり、残りの黒田奨学生としての生活がより一層楽しみになりました。

春からは大阪大学大学院理学研究科物理学専攻に進学し、引き続き学部4年次からの研究に励んでいきたいと考えています。私の研究分野はスピントロニクスであり、電子がもつスピンを自在に操ることで物質が持つ性質の解明に迫る学問分野になります。また、私が大学院を卒業したら半導体関連企業へと就職し、大学で学んだ物理を活かせるような職に就いて社会貢献していきたいと考えております。

高校で学部時代にいただく奨学金を選ぶときに社会貢献への熱い想いに惹かれ、そして黒田奨学生となれたことを誇りに思います。まだまだ至らぬ点はあるかと思いますが、大学院からも引き続き一人の黒田奨学生として研究に励み、将来は立派に社会へと羽ばたいていけるような人材になれるよう頑張っていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

東京工業大学理学院化学系卒業 山根 奏太郎

この度、無事に東京工業大学理学院化学系を卒業し、株式会社「日油」にて研究職としてのキャリアをスタートさせることができました。これもひとえに、黒田奨学会から4年間にわたって金銭面ならびに生活面において、手厚い支援をいただけたお陰です。本当にありがとうございました。

黒田奨学会に所属できて良かったと思うことは二つあります。一つ目は、現在の研究室を選択し、乗り越えることができたことです。私は、黒田奨学会の面接にて、東京工業大学にて有機化学分野での研究をし、社会貢献を行いたいと宣言して進学をしました。しかし、実際に希望の研究室の実情を調べてみると、週5日は当たり前で、帰りは夜の10時や11時、週末に行くことも全く珍しくない、オーバードクターが多くドクターでやめる人も多いなど、ネガティブな情報が満載でした。当時、正直もっと楽な研究室に行ったほうがいいのかものすごく悩んだのを覚えています。しかし、面接時に誓いを立てたこと、金銭面の援助のおかげでアルバイトと研究の両立に悩む必要がないことなどに背中を押され、当初から行きたかった研究室を選択しました。入ってからは本当に大変でしたが、無事卒業できた今としては、こんなに充実した日々はなく、これから先どのような環境で働いたとしても大丈夫だろう、という自信を得ることができました。

二つ目は、研修に参加し、違う分野の方の発表を見ることができたことです。私は、高専から東工大に偏入しているため、文系の方はもちろん、化学分野以外の方ともほとんど関りがありませんでした。私の発表スライドは、現在や高専時に所属している研究室の影響を大きく受け、かなりシンプルなスライドがほとんどでしたが、皆さんの色々な動きや工夫を凝らしたスライドというのは大変刺激になりました。結構、胸を打つというか、印象に残っている発表は今でも覚えています。そのおかげもあり、私が黒田奨学会で発表をする際には、有機化学というあまりなじみのない分野をどう伝えるか、テーマ選びや情報の削り方、スライドの構成等をかなり考えてから望んでいましたし、良い経験になりました。

今後は、これまでの研究生活で得た知識や経験を活かしつつ、新しい研究分野に触れられることを楽しみにしています。今、このような前向きな気持ちで社会人生活をスタートできているのは黒田奨学会のおかげであり、感謝しています。重ねてにはなりますが、本当にありがとうございました。

新 奨 学 生 よ り

Welcome to KURODA SHOGAKUKAI

大学院特定枠奨学生

九州大学工学府航空宇宙工学専攻 岡林 竜一郎



この春から、九州大学工学府航空宇宙工学専攻に進学する岡林竜一郎と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。「社会貢献」という高いモチベーションを持った仲間と共に研究活動を進めていけることが非常に嬉しく感じます。

私が目指すのは、革新的な技術を通じて社会に貢献することです。現在、ドローンの速度などを正確に推定する「複眼視覚航法」という新しい技術について研究を行っており、これを実用化させることで災害時や危険な状況下での小型ドローンの自律飛行が可能になります。そのため、人命救助や被害調査、インフラ点検など、多岐にわたる分野で革新的な解決策を提供できると期待しています。

大学院生としての今後の意気込みは、更なる知識と技術の習得、そしてその実践にあります。先端技術を追求する大学院で、自らの研究を進めるとともに、異分野の知見を吸収し、より総合的な視野を養いたいと考えています。また、チームやコミュニティの一員として、積極的に協力し、共に成長することを心がけます。具体的には、学部時代に培った実験やモノづくりでの知識を活かし、実際のドローンを用いた実験を積極的に行いたいと考えています。これにより、理論と実践を融合させた研究活動を展開し、より実用的な成果を生み出すことを目指します。

最後に、黒田奨学会からの支援を無駄にせず、

その恩恵に報いるためにも、精力的に研究に取り組み、将来的に社会に貢献することを誓います。また、私の持つ知見を黒田奨学会の奨学生や瑞藤会の皆様に積極的に提供いたします。この貴重な機会に感謝し、常に謙虚な姿勢を持ちながら、使命感を持って研究に取り組んでまいります。

九州大学大学院 生物資源環境科学府 資源生物科学専攻 小野 菜月



九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻修士1年の小野菜月と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会の奨学生の一員になれたことを光栄に思い、より一層勉学に励みたいと思います。

私は学部時代、水産科学分野に所属し、水産学を学びました。私は水産学の中でもテトロドトキシンという毒性の高い物質を保有するトラフグに興味を持ちました。トラフグは国内では養殖や漁獲が盛んに行われている海産魚であり、日本の有用な水産資源です。トラフグの成魚は肝臓と卵巣にテトロドトキシン(TTX)を蓄積しており、これらの有毒部位の誤食による食中毒が毎年発生しています。そのため、フグを取り扱う際には資格や処理施設の届け出を要する等、各都道府県により規制されています。実は、このTTXをトラフグ自身が生成することはできず、TTXを生成することができる海洋細菌を起点とした食物連鎖を通じてトラフグ体内に蓄積することがわかっています。しかし、TTXの蓄積、毒性影響および耐性に関する分子機構については十分に解明されてい

ません。そこで、私は大学院でTTXの経口投与によるトラフグへの体内影響について研究を行っています。特に、TTX蓄積に関連する分子機構に強い興味があり、修士課程ではTTX蓄積関連遺伝子・タンパク質の特定を目指しています。将来的には毒を蓄積する機能を持たない完全無毒フグの作出に貢献したいと考えています。

そして、将来は学部と修士課程を通じて学んだ水産学の知識を活かして研究者もしくは地方自治体の水産職として働き、水産業の力で地域の活性化を目指していきたいです。これから2年間、黒田奨学会より多大なご支援をいただけることに心より感謝いたします。黒田奨学会では、研究発表会があり、様々な分野の知見を深めることができると伺っており、参加することを大変楽しみにしております。私も黒田奨学会の奨学生として相応しい振る舞いができるよう日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学人間環境学府空間システム専攻 神田 楓華



この春、九州大学人間環境学府空間システム専攻に進学いたしました神田楓華と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生にご採用いただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会の奨学生及び瑞藤会

の一員となれたことを大変光栄に思うとともに、今後は黒田奨学生としての自覚を持ち、より一層研究活動に励みたいと思います。

ここまでの歩みと致しましては、私は、以前からテーマパーク建築に興味がありました。その中でも、東日本大震災の際に、あるテーマパークの建物や施設は震災による大きな損傷はなく、再開できる状態にあったにも関わらず、原発事故に伴う電力量の低減で計画停電が実施され、テーマパーク内でも一部エリアで停電が起こるなど、安定した運営が難しいといった問題から再開が遅れたこと、また、人々の最低限の生活に必要な電力供給が不安定な状況において、娯楽施設で大量の電力を使う事が問題視されたことをきっかけに、建築と電力、エネルギー問題に興味を持つようになりました。従って大学では建築学科に入学し、

学部4年生からは建築とエネルギー問題などを扱う建築環境分野の研究室に所属し、研究活動を行いました。

その大学の学部での学びの中で、近年、温室効果ガスによる地球温暖化は深刻化しており、日本でもカーボンニュートラルを目指すことが宣言され、それに伴い再生可能エネルギーの主力電源化を徹底して目指す方針が掲げられたこと、そして、脱炭素化に向けた非化石燃料電源への大幅な転換の動きが勢いを増していること。しかし、そうした情勢は変化しているのに、建築分野の知識を持っていて、かつエネルギー問題に取り組む人材は不足している現状を知りました。

従って大学院進学後は、そのような問題を解決するべく、これまでの研究に引き続き、再生可能エネルギーの大量導入に伴い、時間ごとの電源構成変動が拡大しており、需給バランス維持に向けた需要家側における調整力創出の意義が高まっている状況において、CO₂排出係数の時刻変動への対応の観点から、建築物における建築設備、太陽光発電などの自家発電、蓄電池を活用した需給調整手法の検討、評価に関する研究を行なっている状況です。

私は、こうした研究が、カーボンニュートラル達成の一助となり社会貢献につながると考えており、黒田奨学会のご支援の下、精一杯研究に打ち込みたいと思います。日々、精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

九州大学薬学府創薬科学専攻 瀬川 智皓



皆様、はじめまして。九州大学薬学府創薬科学専攻修士1年の瀬川 智皓(せがわともひろ)と申します。この度は、黒田奨学会大学院特定枠奨学生の一員としてご採用いただき、誠にありがとうございます。長い歴史を持つ

とともに社会に多大なる貢献をしてきた先輩方を数えきれないほど輩出してきた黒田奨学会・瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に思っております。私は所属する研究室の先輩であり黒田奨学会の一員である中橋凜太郎さんに進められるとともに、彼が黒田奨学会の仲間刺激を受けな

がら自らの研究に打ち込む姿を見て今回応募させていただきました。これからの研修会などの黒田奨学会・瑞藤会での活動を通して黒田奨学会に所属する先輩・同期・後輩の異分野の話を聞くことで知見をさらに広め、自らの研究に生かしていきたいと考えております。さて私は大学院で有機化学という学問を専攻し、化学反応により薬や病気に関わるような分子を合成する研究を行っております。この有機化学という学問に出会ったのは遡れば高校生のときでした。そして大学受験の際に、興味のある有機化学を用いて人の役に立つようなことをしたいと思い薬学部に入學しました。大学四年間で有機化学に対する自分の知見は人並み以上に広めることができましたし、1年半と短い期間ではありますが研究を通して自分の好きなことで人の役に立つという喜びを多少は味わうことができました。しかしながら、有機化学の理解と応用も人の役に立つこともまだまだ伸ばせるところが大いにあると考えております。そのため大学院では黒田奨学会の支援を受けさせていただくことで金銭的に余裕を持って研究活動に専念し、有機化学という学問に対する知見をさらに広め創造性を深めていくとともに、新しい薬の開発や疾病メカニズムの解明・治療が難しいとされてきた病気の治療法の確立につながるような研究成果を出して社会に還元していきたいと考えております。まだまだ未熟者ではありますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学経済学府経済システム専攻 戸田 遥香



この春、九州大学経済学府経済システム専攻に進學いたしました戸田遥香と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。黒田奨学会、及び瑞藤会の一員となれたことを大変喜ばしく思うとともに、これから始まる大学院生としての生活に向け一層身の引き締まる思いです。大学院での研究活動や黒田奨学会での交流などを通し、たくさんの刺激を受けながら自分と向き合い続けることで、社会に貢献できる人材になれるよう精進していく所存です。

私は環境経済学という学問分野を専門に研究を行っており、大学院ではこの分野での研究を通して、昨今の世界的課題である気候変動対策に貢献したいと考えております。私の研究テーマは、米国における移民の流入がCO₂排出へ与える影響分析です。現在米国は、世界で最も多く移民を受け入れている国であるとともに、一人当たりCO₂排出量も極めて大きな、炭素集約的なライフスタイルを持つ国でもあります。そのため、移民の受け入れは米国経済を支える側面がある一方で、環境に負の影響を及ぼしていると言えます。そこで私は、米国の州ごとに異なる移民の受け入れ状況や産業構造、消費スタイルなどを考慮し、移民由来のCO₂排出量の実態や削減ポテンシャルを州レベルで捉えることで、州権限の強い米国に有効な政策提言をしたいと考えております。また米国のみならず、世界各国においても同様に移民由来のCO₂排出量を推計できるように新たな分析フレームワークを構築することも目指しています。経済か環境か、生産者か消費者か、どちらか一方のみを優先して考えられがちですが、私はどちらも諦めず、持続可能な気候変動対策にこだわり続ける研究者でありたいです。

最後になりますが、目の前にあるチャンスやご縁を大事にしながら、実り多き大学院生活を送れるよう、強い信念を持って頑張ってまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学工学府応用化学専攻 中川 さくら



九州大学工学府応用化学専攻の中川さくらと申します。この度は黒田奨学会大学院特別枠奨学生としてご採用いただき、ありがとうございます。黒田奨学会及び瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に思っており、今後も一層研究に励んでまいります。

私は将来、化学の分野にて第一線で活躍する研究者として、その力を社会に還元できる架け橋になりたいと考えております。化学はまだ社会にない技術をゼロの状態から生み出す力を持つ学問であると考えており、そのような化学に魅せられ、大学では工学部物質科学工学科を専攻致しました。

大学院では、現在、フォトン・アップコンバージョン

オン(UC)と呼ばれる、分子を用いてエネルギーの低い長波長の光(可視光)をエネルギーの高い短波長の光(紫外光)に変換する技術を用いた医薬品合成のための多孔質材料の開発を行いたいと考えています。この技術は、従来利用できなかった低いエネルギーの光を有効利用する技術として注目を集めています。紫外光は様々な光反応による薬剤合成のために有用ですが、人工的に紫外光を生成するには環境への負荷が大きいなどの課題があります。その解決策として、私は可視光を紫外光に変換するUCを示す多孔質モノリスを開発し、それを用いたフロー合成への応用を行いたいと考えています。モノリスとは、骨格と空隙が連続した構造を有する多孔質体です。モノリス中に反応溶液を一方向に流すフロー合成を行うことで、今まででは大量合成が困難とされてきた薬の合成が可能となる待望の技術であり、コストの大幅な削減により薬剤開発に革新をもたらすシステムとなることが期待できます。

このようなUCによるエネルギー変換システムの構築により、創薬・医療・エネルギー分野など多岐にわたり、未来の社会において革新的な進展をもたらすことが期待されています。一方で現時点ではUCの実用化が限られており、学問における研究と実用化の間には依然として障壁があることが課題です。私はその障壁を取り払い、UC技術を実用的かつ手軽に利用できる形に変換したいと考えています。これによりUC技術が実用的かつ社会に広く普及し、様々な分野でのUCの利用が拡大することで、化学の分野に留まらず社会に貢献することを目指します。

大学院生活では黒田奨学会のご支援のお陰で経済面での障害が払拭され、大変感謝しております。黒田奨学会の名に恥じぬよう、国内外への学会に積極的にチャレンジするなど、社会に大きく貢献できる研究者としての礎を築く機会として精進して参ります。

九州工業大学情報工学府 情報創成工学専攻 三上 紗奈



九州工業大学情報工学府
情報創成工学専攻修士1年に
進学しました三上紗奈と申
します。この度は、黒田奨学
会大学院特定枠奨学生の一
員としてご採用いただき、誠
にありがとうございます。長

い歴史を持つ黒田奨学会の奨学生となれたことを光榮に思うとともに、より一層研究活動に取り組んでいきたいと思っています。

私は、環境問題に取り組む研究者として、環境汚染の低減や生体実験のコスト削減に貢献することが目標です。現在世界では、プラスチック製品による海洋汚染が問題となっています。海洋を漂うプラスチックは残留性有機汚染物質などを吸着し、高濃度のプラスチック片として漂流します。これらの漂着プラスチックは食物網を通じて生体内へと取り込まれることから、プラスチックに吸着した様々な化学物質によるヒトや野生生物への影響が懸念されています。しかし、従来の毒性評価の手法では、一つの化学物質に対して、一つの疾患をエンドポイントとして評価するため、複数の化学物質の毒性を評価するのは困難でした。

そこで、私が目指す研究である「コンピュータを用いて化学物質の毒性を予測すること」は環境汚染物質の削減に貢献することができます。具体的に、データサイエンスの手法の一つであるネットワーク生物学を使って、複数の化学物質の毒性を評価します。その過程で予測精度を高めていくことで生体実験の指針となり、生物の負担を最小限にできると考えています。

そのため修士課程では、国際学会や国際シンポジウムに積極的に参加したいと考えています。ヨーロッパや欧米は環境保全活動が盛んであり、最先端のバイオインフォマティクスの研究が行われているからです。国際共同研究を推進し、先進的な課題や取り組みを取り入れることで、日本でもヨーロッパや欧米に並ぶ質の高い研究を行えるようにしていきたいと思っています。

これらにより、バイオインフォマティクスの技術を身につけ、情報技術を駆使して実験動物の命を奪うことなく、「プラスチック汚染のない」国際社会を実現したいとおもいます。黒田奨学会のご支援のもと、瑞藤会の皆様とのご縁を大切にしながら研究活動に日々精進していきます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学大学院地球社会統合科学府 米山 玲緒



九州大学大学院地球社会統合科学府に進学いたします、米山玲緒と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生にご採用いただき、ありがとうございます。長い歴史を持つ黒田奨学会および瑞藤会の一員として誇りを持つと共に、今後一層のこと、学業や研究に対して真摯に取り組んでいきたいと思ひます。

学部では、卒業プロジェクトとして博物館展示に関する研究を行っていました。九州大学伊都キャンパス建設時に記録保存となった石ヶ原古墳跡展望展示室において、展示の充実化を図るため、歴史学習とエンターテインメント性を兼ね備えた、相互性のあるデジタルコンテンツを開発しました。本プロジェクトは、来年度からの修士課程でも副専門として継続して行い、実装化に向けて準備や改善を進めていきます。

大学院では、近世古人骨の関節炎を専門として研究を行います。博多遺跡や箱崎遺跡などを対象とし、江戸時代の関節炎について、都市と農漁村などの地域的比較、武士・町人・農民などの階層的・経済的比較を行いながら、そのパターンを比較することで、当時の生活・労働環境などの社会的・文化的背景を復元していきたいと考えています。

現在、学芸員資格を取得中ですが、将来は、博物館などの研究・教育施設で、本国の歴史や社会、またそれらを有効に伝える展示空間を探究していきたいと考えています。専門となる骨考古学や副専門の博物館展示、また、研究の中で培うあらゆる知見を組み合わせ、それらを活かしながら、学んだことや研究で得られた結果を社会に還元していきたいと思ひます。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに、改めて感謝申し上げます。未熟で至らぬ点も多いかと思ひますが、持ち前の知的好奇心を活かしながら、研鑽を積み、社会に貢献できる人間を目指していきたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学一般奨学生

九州大学農学部生物資源環境科 石倉 未来



今春、福岡高校を卒業し、九州大学農学部生物資源環境科に進学致しました石倉未来と申します。

この度は、黒田奨学会の奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会の一員

となれた事を大変光栄に思うと共に、大学生活に向けて身が引き締まる思いであります。

私は人の健康を増進できるような食品の開発を進めたいと考え、生命科学や社会科学など広範にまたがる学問分野である農学を学べる九州大学農学部への進学を致しました。人生100年時代といわれておりますように、医療の発達と環境の整備によって、人の寿命は世界的に伸びています。その伸びた期間を、食の力で、より心身ともに健康に過ごせるような方法を考えていきたいと思っております。

なぜ「食」の力にこだわるのか、それには理由があります。今日、技術の発展により手軽に美味しい食事が出来るようになりました。レトルト食品やインスタント食品の種類は多岐にわたり、コンビニエンスストアやスーパーマーケットでは美味しい惣菜が買えます。私達は、食べたい物を、好きな時に、どこでも食べられる、そのような幸福な環境を手に入れました。その環境の裏側で、世界の肥満率は増加し、生活習慣病にかかる人の割合も増えています。食は私達を形作るものであり、生きていく上で欠かせません。だからこそ、より簡単に美味しく、そのうえバランスのとれた食事について考える事が、人が「心身ともに」健康となる方法だと考えております。

大学生活は今までの学生生活とは異なると感じております。新たな友人との出会い、より専門的となる深い学び、沢山の挑戦ができる環境があります。一つ一つの経験を自分の成長に繋げられるよう努める所存でございます。

最後になりましたが、至らない点も多々あり、奨学会の先輩方や理事の方々にご迷惑をおかけする事も多いかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

慶應義塾大学商学部 宇田川 樟



この春、筑紫丘高等学校を卒業し、慶應義塾大学商学部に入りました宇田川樟と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会、そして瑞藤会の一員

としての誇りを胸に抱いて日々精進し、多方面の分野で活躍されている先輩方に自分自身も続けるよう、勉学に励んでいきたいです。

先日行われた黒田奨学会の入学式では、現在活躍されている偉大な先輩方のお話を伺い、奨学生としての誇りがより大きくなると同時に、身の引き締まる思いでいっぱいでした。

私は大学で、経営に興味があるので、企業の戦略やマーケティングについて深く学びつつ、数学が好きなので、数理科学プログラムというものを履修して、論理的な思考を身につけたいと考えています。また、流通にも興味があるので、商社での長期インターンも考えています。

その一方、大学内での学びもちろん重要ですが、大学以外での活動にも4年間力を注ぎたいと考えています。具体的には、私は日本の歴史的な良さを世界に発信することを大きな目標としているので、自分で京都や鎌倉などに赴き、その良さをSNSを通して世界に発信したり、留学を経験して外国の歴史的なものに直接触れることで、日本と外国の違いを自分の目で確かめたりしたいです。

先日慶應義塾大学の入学式を終え、大学生としての生活がスタートしました。これからたくさんの刺激的な仲間や教授と出会い、どのような4年間になっていくのだろうかと考えると胸が高鳴ります。4年間という限られた時間をただ漫然と過ごすのではなく、自ら主体的に行動し、様々なことにチャレンジすることで、後悔しない大学生活を送りたいと思います。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の新奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。まだまだ至らぬ点が多い私ではありますが、目標に向けて精進し社会貢献を実現したいと考えています。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

九州大学経済学部経済・経営学科 浦田 弘仁



今春、福岡県立城南高等学校普通科を卒業し、九州大学経済学部経済・経営学科へ進学いたしました浦田弘仁と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。由緒あるこの黒田奨学会の一員となること、身に余る光栄と存じます。

私は4年間の学部での学びに加えて、修士課程、博士課程を経て、経済学を学びたいと考えております。現代の日本は経済の低迷が深刻化し、経済成長への糸口もなかなか見えない状況にあります。

このような状況を打破するために、現代の日本が抱える問題について詳しく学び、専門知識を持ち、常に学び続けながら改善、解決へ導く端緒を探求していきたいと考えております。「経済」の語源である「経世済民(経国済民)」とは、国を治め、人々を救い、幸福へ導くものとして考えられていました。しかし、現代ではそのような概念は意識されず、経済状況によって苦しむ人々も存在します。物価の上昇という国民にとって直接的で身近な問題から、莫大な政府債務残高という国家規模の財政にかかわる問題に至るまで、解決すべき問題は多岐にわたります。このような問題の解決には、深い専門知識や、幅広い見識が必要であり、日本経済をグローバルな目で見ることにも非常に重要となります。これらのことから、「失われた30年」と呼ばれる日本の状況を少しでも改善したいと考え、九州大学経済学部への進学を志しました。

大学では、与えられた学びの場や環境を最大限に活かして主体的に学ぼうと思っております。それだけではなく、経済学に留まらず、幅広い分野に関する書物に多く触れ、専門知識や見識を深めていきたいと考えております。黒田奨学会では、高い志を持って学び、社会で活躍されている諸先輩方と交流できる機会が設けられているため、社会貢献のために必要な学びを多く得ることが可能であり、黒田奨学生にならなければ得ることができない学びも多くあるかと存じます。未熟な私ではありますが、このような機会を最大限活かし、将来の社会貢献のために謙虚に学び、日々精進してまいります。ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

大阪大学文学部 大田 徠瑛



この春、九州国際大学付属高等学校を卒業し、大阪大学文学部に進学いたしました大田徠瑛と申します。この度は、田奨学会の奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。歴史ある奨学会の一員となったことに嬉しく思うと同時に身が引き締まる思いでいっぱいです。研修会をはじめ、さまざまな行事を通して、多方面の分野の方々と交流できますことを楽しみにしております。また、九州国際大学付属高等学校からの奨学生の採用は初めてだということで、母校の後輩たちの良き手本になれるように努めてまいります。

大学では、主に日本の工芸や美術品、伝統芸能について研究する予定です。現在、日本には後継者不足による伝統の衰退や、保存環境や条件を十分に満たすことができず危うい状態にある文化財などが少なくありません。これらの原因は何であるかを私なりに考えた結果、世間が価値を理解していない、また現状を理解されていないのではないかという結論にいたりしました。この現状を解消するために、大学で日本の伝統が生まれ歩んできた歴史、魅力や現在直面している課題について理解を深め、国内外の多くの人に伝えていきたいと思っています。

また昨今、“多文化共生”や“異文化理解”、“グローバル化”が声高に叫ばれている世の中だからこそ、母国の歴史や文化、伝統を深く理解し大切にすることが極めて重要であると考えます。確かに、他文化と交わり新たに誕生する文化もありますが、果たして今までずっと大切にされた文化はその後受け継がれ続けるのでしょうか。消えてしまわないのでしょうか。新時代に適合する型を得た伝統は、従来の型が衰えないのでしょうか。クールジャパンだ、といって世界の多くの人が日本の伝統や文化に興味を持ってくれているのならば、日本人である私たちはなにができるのか、なにをすべきなのでしょう。明確な答えのない漠然とした問いを胸に、私は私の愛す日本の文化・伝統を伝え守るため研鑽を積んでいく所存です。

まだまだ至らぬ点も多く、先輩方や理事の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたし

ます。学びの多い充実した大学生活をおくれるよう、何事にも積極的に挑戦し、学友と切磋琢磨しながら勉学に励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

大阪大学経済学部経済・経営学科 金本 准



福岡高等学校を卒業し、この春大阪大学経済学部経済・経営学科に進学いたしました金本准と申します。この度は名誉ある黒田奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会、瑞藤

会の一員となれたことを大変光栄に思っています。これから社会に貢献できる人材となれるように日々精進していききたいと思います。

私は将来日本の経済発展に貢献したいと考えています。現在日本の1人当たりGDPは世界において低くはありませんが、非常に高いとはいえません。日本は一億人以上の人口を抱えながら先日ドイツにGDPを抜かれたことからこのことが課題であると私は感じます。また日本経済は長年停滞しているにもかかわらず少子高齢化で社会保障費が増加するために今後も増税が続くと予想できます。それに加えて昨今の物価上昇が続けば国民の生活はさらに苦しくなるでしょう。身近な例では、私も受験勉強の合間に軽食を買う際に物価の上昇をひどく感じました。

私は日本の人々が今より金銭的にも精神的にも余裕を持って日々の生活を営めるようにする手助けができればと思っています。そのために様々なものがどのように経済に影響を与えるのか、また経済発展、豊かさの向上に役立つものが何なのかを将来研究したいと考えています。特に私は教育が重要だと考えているので、教育に焦点を当てていきたいです。大学入学後は基礎から経済学、経営学を学ぶだけでなく幅広い分野を学び、自身の見識を深めていきたいと思っています。また大学や黒田奨学会での人との繋がりを大切に、多くの人と関わって自分自身を高めていきたいです。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに深く感謝申し上げます。まだまだ未熟であるためご迷惑をおかけすること多いと思いますが、各方面でご活躍

されている先輩方の名に恥じぬよう精一杯努めてまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学工学部Ⅲ群 河野 雅宏



この春に福岡県立福岡高等学校を卒業し、九州大学工学部Ⅲ群に進学いたしました河野(かわの)雅宏と申します。この度は黒田奨学会奨学生へ採用していただき、誠にありがとうございます。

100年以上続く由緒正しき黒田奨学会及び瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。これから多くの先輩方との素晴らしい出会いを通して様々なことを学ぶとともに、私自身も黒田奨学会及び瑞藤会の一員として誇りをもって日々精進してまいります。

私は将来、九州大学大学院工学研究院航空宇宙工学部門まで進学し、博士号を取得した後、宇宙開発に携わりたいと考えています。ひとえに宇宙開発といっても、ロケットや人工衛星の運営・開発から国際宇宙ステーション(以下ISS)での無重量空間における研究・実験、さらにはスペースデブリ回収に向けた研究など、多岐にわたります。その中でも私は、ロケットや人工衛星の開発に携わりたいと考えています。近年、アルテミス計画をはじめとする宇宙開発競争が激化しており、イーロン・マスク氏率いるSPACE X社が開発した有人ロケット「クルードラゴン」が民間ロケットとして初めてISSへのドッキングを成功させたことは記憶に新しいことでしょう。しかし、以上のような宇宙開発にはある大きな課題があります。それは持続可能性が低いことです。宇宙開発というのはしばしば、その開発費用が巨額でありロケットを打ち上げることによるCO₂排出量が多いことなどが様々な方面から批判されています。現に、人類の今世紀最大の達成目標がこれ以上の地球温暖化の阻止をはじめとする所謂「SDGs」の達成であるとする以上、この宇宙開発の負の側面を無視することはできません。そこで私は、より低コストで生産でき且つよりCO₂排出の少ないロケット等の開発をすることでゆくゆくは社会貢献をしていきたいと考えています。例えば、金属

の湯流れ性を活用することでパーツの数を大幅に減らし、水素をロケットエンジンの燃料として活用すれば従来に比べて格段に生産コストは抑えられ、CO₂を一切排出することなくロケットエンジンとしての役割を果たしてくれるでしょう。

そのためにもまずは一年次の教養課程において様々な分野を広く、浅く学習することで多面的な思考力を養うと同時に、長期休暇を利用してボランティアなどの様々なことを経験することで黒田奨学会及び瑞藤会の一員として相応しい「人財」とはどのようなものであるかを模索していきたいと考えています。

最後になりますが、まだまだ至らない点も多く、黒田奨学会及び瑞藤会の皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

佐賀大学医学部医学科 木原 帆夏



筑紫女学園高等学校を卒業し、この春より佐賀大学医学部医学科に進学いたしました木原帆夏と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会

及び瑞藤会の一員となることができたことを大変誇りに思うと同時に身の引き締まる思いです。これから社会に貢献できる人になるために日々精進し、様々なことに積極的に挑戦していきたいと思っています。

私は将来、患者さんの不安に寄り添うことができる産婦人科医になりたいと考えています。晩婚化や女性の社会進出が進む中で、妊娠や婦人科系の病気で不安を抱える女性も増えています。そのような女性達に寄り添い、意思を尊重することで彼女たちが妊娠中や病気の治療中でも過ごしやすくなる手助けをしていきたいと考えています。また、将来は地域医療に携わりたいと考えています。現在、産婦人科医が不足している地域がいくつもあります。そのような産婦人科医が不足している地域のクリニックで働き、その地域の女性が安心して暮らせるような環境づくりをしていきたいと思っています。

大学生活では、毎日学びを得るということを意

識しながら生活していきたいです。また、新たな出会いを大切に、ボランティアや講演会などにも積極的に参加し、様々な分野に関わり多くのことを学び人として成長し、将来に繋げていきたいです。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに深く御礼申し上げます。黒田奨学会の研修会での奨学生との交流や発表などを通してたくさんのことを吸収し、成長していきたいと考えています。まだまだ至らぬ点多々ありますが精一杯頑張りますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

東京理科大学理学部第一部物理学科 下田 凜歩



明治学園高等学校を卒業し、この春東京理科大学理学部第一部物理学科に進学しました下田凜歩と申します。この度は歴史ある黒田奨学会の奨学生、そして瑞藤会の一員として採用いただき大変光栄に思っています。奨学会

の目指す社会に貢献できる人材に近づけるよう、日々勉学に励みたいと思います。

私は将来、宇宙や天文学を中心とする物理学の研究者になり、国際的な研究機関で働きたいと考えています。私が宇宙に興味を持ち始めたのは小学生の頃からです。2012年に日本各地で観測された金環日食を実際にみてその美しさに感動し、それ以来宇宙の図鑑や解説書を読んだり、プラネタリウムへ通ったりするようになりました。こうするうちに、宇宙には多くの謎と可能性があることを知り、それらを解き明かす手掛かりとなるような研究をしたいと考えるようになりました。また、高校時代の物理の授業で、この世のありとあらゆる現象は式で表せ、計算によってある程度予測が可能であることを学び、物理の普遍的な美しさに私はますます惹かれていきました。

私が目指している物理学、特に宇宙物理学は主に2つの点で社会貢献につながると考えています。それは、人類の宇宙開発と外交関係の促進です。宇宙開発という一つの目標に対して国家間で協力や競争がなされることで、開発だけでなく外交関係も促進されると思います。現に、数年前から日本を含む八カ国がアメリカを主導としてアル

テミス計画と呼ばれる月面探査計画を進めており、国家間で協力がなされています。

私は自分の将来のために、大学ではX線を用いて宇宙を観測している研究室に入り、多くの専門知識や技術に触れたいと考えています。研究室配属は3年次までの成績順で決められる上、宇宙系の研究室は物理学科の中でも特に人気であるので、これからは必修である理科系の科目だけでなく言語や歴史などの文系科目の勉強にも力をいれ、高いGPAを維持することを目標にしたいと思います。また、私は大学生のうちに宇宙研究の最先端であるアメリカに留学したいと考えています。そこでは専門知識の深い理解だけでなく、将来国際的な研究機関で働くための英語の習得もできると考えています。

大学生という短く貴重な時間を有意義に使えるよう、さまざまな新しいことに挑戦していきたいと思っています。まだまだ至らない点も多くあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いします。

千葉大学工学部総合工学科 庄子 綾乃



北九州工業高等専門学校を卒業し、この春より千葉大学工学部総合工学科に進学した庄子綾乃と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、心より感謝申し上げます。歴史と伝統のある黒田奨学

会の一員として選ばれたことを、大変光栄に思っております。さらに、様々な分野でご活躍されている先輩方や、社会貢献をするという同じ志を持ち日々勉学に励む他の奨学生の方々と関わることができ、非常にうれしく思っています。黒田奨学生の名に恥じないよう、日々自己研磨に励む所存です。

私は、人々の健康や幸せに貢献できる医療機器の開発や研究に携わりたいと考え、千葉大学工学部総合工学科医工学コースへの進学を決めました。現代の医療では、予防、診断、治療、リハビリテーションなどのすべての医療行為の中で医療機器はなくてはならない存在となっています。また、高齢化の進んだ日本では医療従事者の不足が大きな問題となっており、医療従事者の負担を減ら

すことのできる医療機器の開発も求められています。私は、高性能で安全かつ患者さんや医療従事者が使いやすい医療機器を開発できる技術者になり、医療機器を通じて医療を支え、社会に貢献することを目指しています。

先日、大学での授業で「医療従事者を1つのタイヤ、工学者をもう1つのタイヤとすれば、医工学技術者はそれらを繋ぐ車軸のような存在である」と学びました。良質な車軸として機能するためには、両方の分野を深く理解し、つなぐ役割を果たすことが重要です。私は高専では電気電子工学を専攻しておりましたが、医工学分野ではさらに広範な工学知識や技術と医療知識が求められます。幅広い知識や知識を身につけることは容易ではありませんが、日々勉強を重ね、一流の技術者になるために精進致します。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに深く感謝申し上げます。至らない点も多くあるかと思いますが、医療機器の開発や研究を通じて社会に貢献するという目標に向かい、日々努力を重ねて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

九州大学芸術工学部芸術工学科 音響設計コース 末永 乙羽



この春、福岡校高等学校を卒業し、九州大学芸術工学部芸術工学科音響設計コースに進学することになりました。末永乙羽と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただいたこと、心より感謝申し上げます。歴史ある黒田奨学会、そして瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に感じるとともに身が引き締まる思いです。様々な方面で社会に貢献されている先輩方に続いていけるよう日々精進していきます。

私は幼い頃からピアノを弾くことや歌を歌うことが好きで大人になっても音に関わっていきたいと考え、九州大学芸術工学部芸術工学科音響設計コースに進学することを決めました。ここで音に関する鋭い感性と高度な知識を身につけ、音に関する芸術工学の視点に立脚し、人間に適合した音環境の創出、音響情報の高品質化、音に関す

る芸術文化の創造を実現できる人材となっていきたいと考えています。そして将来は建築音響設計に携わり、コンサートホールや劇場などの音響設計、さらには私たちが長い時を過ごす家を心地良い空間にするような研究や仕事をしていきたいと考えています。

私が大学生活で大切にしたいことは人との繋がりであります。私が所属する音響設計コースは非常に珍しく全国各地から独特な感性を持った人材が集まっているため、サークル活動などに積極的に参加して関わりを持つことで自分の知らない世界を知ったり、価値観をアップデートしたりする良い機会となります。また、九州大学には外国人留学生も多く日本とは異なる文化を知ることにも可能です。私が現在住んでいる九州大学伊都キャンパス内にあるドミトリーには多くの外国人留学生が居住しており、これを機に外国の方との交流も深めていきたい所存です。

まだまだ至らない点は多いと思いますが、黒田奨学生としての自覚と誇りを持ち精一杯励んでまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

九州大学工学部Ⅵ群 田内 裕丸



この春、福岡県立宗像高等学校を卒業し、九州大学工学部Ⅵ群に進学した田内裕丸と申します。この度は黒田奨学会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会、瑞藤会の

一員となることができ大変光栄であると同時に、身が引き締まる思いです。多くの分野で活躍される先輩方との交流を大切にしながら、自分も社会に貢献できる人材となるべく日々の学習に身を入れていきたいと思っています。

私は、小学生の時に父をがんで亡くし、その時から人の命を救う仕事にあこがれてきました。しかし、高校生の中に日本の次世代リーダー養成塾やその他の場面で多様な価値観、目標を持つ人々と交流をする中で、人の命を救うことができるのは、医療従事者だけではないということに気づきました。これから先の社会、人生百年時代を全員が健康に幸せに暮らすためには、健康寿命を延ばす

必要があります。WHO、世界保健機関によれば、健康寿命とは「日常的に介護を必要とせず自立した生活ができる生存期間のこと。」と定義されています。この健康寿命と平均寿命の差は令和元年度で男性が8.73年、女性が12.06年。この数字を縮めるためにはどうすればいいのか。

私の進学先である九州大学工学部Ⅵ群は2年生の後期に希望する学科群学科に大学での授業成績に基づいて配属されます。そのため大学1年生の間に自分はどうすれば日本人の、あるいは世界の人々の健康寿命を延ばし、人生百年時代を支えていけるか。この答えを見つけるために基幹教育をしっかりと学び、自分の進路選択の前提となる知識を身につけたいと思います。

最後になりましたが、至らない点も多くあり、奨学会の先輩方や理事の方々にご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、何卒よろしくお願いいたします。

佐賀大学芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科地域デザインコース 田上 心咲



春日高等学校を卒業し、この春より佐賀大学芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科地域デザインコースに進学しました田上心咲と申します。この度は名誉ある黒田奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員になることができ、大変光栄です。また、様々な分野で活躍されている先輩方のように、社会貢献できる人になれるよう、努力していく所存です。

私は将来、学芸員になり、多くの人々に美術への関心を喚起し、身近な場所で芸術に触れることができる環境を創り出したいと考え、佐賀大学芸術地域デザイン学部を選択しました。芸術は人々にさまざまな視点を提供し、感性を高め、新しい価値を見出す手段となります。また、芸術は言葉ではなく視覚的に人々の内面に働きかけるので鑑賞者一人一人の「自分らしさ」を引き出すことができ、心の健康を回復することに繋がります。しかし、近年、情報過多やさまざまなエンターテインメントの台頭によって美術離れが加速し、美術に対する関心は年々低下しています。この状況

を改善するために、人々が日常生活の中で自然と芸術に接することができるような空間を創り出したいと考えています。

佐賀大学芸術地域デザイン学部では、一年生の時から学芸員資格取得に特化したカリキュラムが組まれているため、学芸員資格取得のための勉強に専念することができます。また、長期休みを利用して国内外に研修に行くことができるので、早いうちから世界各国の芸術作品に実際に触れることができます。このような環境を生かして日本国内だけでなく、世界中で活躍できるような学芸員になれるように大学生活でしっかりと芸術学を学んでいきたいです。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに改めて深く感謝申し上げます。未熟で至らぬ点の多い私ではありますが、懸命に努力してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

福岡教育大学中等教育英語専攻 多田 正瀧



福翔高等学校を卒業し、この春より福岡教育大学中等教育英語専攻に進学いたしました多田正瀧と申します。この度は名誉ある黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

歴史と伝統のある黒田奨学会及び瑞藤会の一員に迎え入れていただいたことを大変光栄に思うとともに、より一層、日々の研鑽に励んで参りたいと思います。

私は将来、子どもたちの日々の心の拠り所のような教員になることを目指しております。多くの子どもたちにとって一日を過ごす場所は家庭と学校です。中学校、高校となれば学校で活動する時間の方が長いという子どもも少なくないでしょう。だからこそ教員としてできることは、学校という場所を子どもたちにとっての快適で安心できる居場所にしてあげることであると存じます。実際に私は小学生の頃に、家庭と学校のどちらに居るのも苦しい時期があり相談できる相手もおらず、一人で大変悩んでいました。ですがそんな時に手を差し伸べてくれたのは担任の先生でした。その先生が学校を私の居場所にしてくださったのです。それ以来、私は今までずっと学校を、友達を、

先生方を心の拠り所にして成長して来られました。私は、更なる将来を担う子どもたちの一番の救い、影響となるのは教員であると確信しております。

私はまた、子どもたちが楽しく学べてかつしっかりと英語の力が身に付くような指導のできる英語科教員になることを目標としております。英語を学ぶ、ということは英語の文化を学ぶということでもあります。人に英語を教えるためには単なる英語の知識はもちろん、そういった文化的背景も理解していることで英語の面白さまで伝えることができると存じております。そのために大学では教育を学ぶのみならず、自分の“英語力”をどんどん向上させていきたいです。

最後になりますが、黒田奨学会では志高い奨学生や社会でご活躍されている先輩方と交流させていただける機会が設けられています。このような恵まれた環境に感謝し、自らの成長の糧にしたいと思います。また、先輩方や同期の方々との関わり合いを大切にしていきたいです。まだまだ至らぬ点の多い私ではございますが、黒田奨学会の奨学生として相応しい人物となれるよう、そして社会に貢献することができるよう目標に向けて精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

京都大学文学部 高宮 諒



福岡県立東筑高校を卒業し、この春より京都大学文学部に進学しました、高宮諒と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会の奨学生ならびに瑞藤会の一員となれたことを光栄に思うとともに、身の引き締まる思いを感じているところです。

私は、幼いころから歴史に興味を持ち、司馬遼太郎の歴史小説やイスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリの『サピエンス全史』などの著書を読んで衝撃を受け、将来は歴史の研究者となって、社会に貢献したいと考えるようになりました。その夢を叶えるために、貴重な歴史的遺産が数多く残る京都という地で学びたいと考え、進路を決定しました。

しかし、「歴史を学ぶこと」と「社会貢献」は関係

のないことのように思われることも多いと思います。たしかに、歴史を学ぶことは、医学や薬学、工学、農学、経済学、法学といった他の学問に比べて社会に直接的に貢献できることは少ないかもしれません。ですが、人は過去から学ぶことで視野が広がり、未来を知ることにはできないまでも、将来の選択肢を増やし、直面する課題と多角的に向き合うことができるようになると、私は思います。例えば、現在のイスラエルとガザ地区の紛争でいえば、一方的にイスラエルを非難するだけでは事態の解決にはつながりません。イスラエルのユダヤ人の歴史とガザ地区のアラブ人の歴史の両方を学んで、互いの立場、文化、価値観を理解することによってはじめて、互いを尊重した根本的な解決策が見つかるのではないのでしょうか。私は、大学生活で、歴史だけでなく、他の幅広い学問分野を学ぶことで、広く深い教養を身につけるとともに、「自由の学風」を掲げる京都大学の多様な学問分野の方々と交流を通して、幅広い視野を持ちたいと思っています。そして、歴史の学びから、社会が直面する諸課題を解決する糸口を見つけられるような研究者になりたいと思います。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、多大なご支援をいただけることに改めて深く御礼申し上げます。このような恵まれた環境に感謝し、黒田奨学会の名に恥じぬよう、歴史を学んで社会貢献するという目標を成し遂げられるよう、精一杯努力を重ねていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部文科二類 田中 琉惺



修猷館高等学校を卒業し、この春、東京大学教養学部文科二類に進学いたしました、田中琉惺と申します。この度は、黒田奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会、及び瑞藤会の一員として、その名に恥じぬよう弛まず精進していこうと、身の引き締まる思いを抱いております。

また、奨学会の中で、様々な分野に秀でた先輩方、仲間たちと積極的に交流し、自らの見識を深め

ていけることを楽しみにしております。

大学生活では、まずは講義など、学校で与えられた学びの機会を主体的に活用し、多くの知識を身につけていきます。また、それに加え、興味を持った分野に限らず、できるだけ多様な、多くの本を読んで自らの視野を広げると同時に、自分の将来につながりそうだったイベント等には積極的に参加して、豊かな人脈や経験を得ていこうと考えております。

私は現在、社会課題の解決にビジネスの形で持続可能的に取り組んでいく、ソーシャルビジネスという形態での社会貢献に興味を持っております。大学での四年間を通じ、さまざまなソーシャルビジネスの事例を学んだり、実際にそのような道で活動されている方々と直接関わったりして、将来自分がそのような事業に携われるように学びを深めていくことが、取り組みたいことの一つです。

しかし、ソーシャルビジネスに携わりたいといっても、私はまだ、そのビジネスとしての斬新なあり方に魅力を感じているだけで、具体的にどんな社会課題に取り組んでいきたいか、はっきりとは決められておりません。そのため、大学生活の中でも、海外を含めさまざまな場所に足を運んだり、先に述べたような大学の講義や読書で見識を深めたりすることを通じ、自分が社会を良くしていくために取り組める、将来の仕事にしたい分野、解決すべき問題を探していくことが自分の中の一つの大きな課題であると考えております。

まだまだ将来のことについても暗中模索の未熟者ではありますが、固まった方向性がないからこそ、さまざまな分野に興味を持って手を出し、自分自身を幅広く成長させていく四年間を過ごしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

東京大学理科一類 津村 有



今春、修猷館高校を卒業し、東京大学理科一類に進学致しました津村有と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会、そして瑞藤会の一員となることができた喜びをかみ締めております。黒田奨

学会の名に恥じぬよう、日々研鑽していく所存です。

私は幼い頃から折り紙に強い興味があり、小学校の頃などは、学校から帰ったら何を折るかということしか頭になかったことを、今でも昨日のことのように覚えています。その頃は母が折り紙の指導者でしたが、早く母を超したいという気持ちで一杯でした。寝る時も枕元に折り紙の本を置くほどの熱中ぶりだったそうです。小学校中学年頃から超難関折り紙と呼ばれる作品群に熱中し、加えて創作にも取り掛かっておりました。中学生で本格的に創作をはじめ、高校生では文化祭において自身の作品群の展示会を行い、好評を博することができました。東大に入学後も折り紙サークルに入り、折り紙界を牽引していきたいと考えています。また、武道など、新しいことにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。私自身、折り紙や文学、数学など、興味のある分野が多岐にわたっているため、自分が最も究めたい学問を東京大学の前期教養課程において見極め、その学問を通して生涯にわたり、社会貢献のために尽力していきたいと考えております。

これは私の一見解に過ぎませんが、人生においてうまく生きていくには忍耐力がかなり必要になると考えています。私自身、高校一年生の時は再生不良性貧血という難病にかかり9か月近くの入院を余儀なくされ、約一年間は高校生らしい学校生活をほとんど送ることができませんでした。しかし、私はめげたり悲観したりといったことは絶対にしないようにしていました。なぜなら、小児科にいた自分より遥かに小さく、自分よりも重い病気を患っている子供たちは、長く辛い入院生活にめげることなく、大らかに日々を過ごしていたからです。私は今まで目にしたことのないほど美しい心を彼らの中に見ました。そのような中で彼らよりも長く生きている私が悲観するのは彼らに対する冒涇だ、そう考えたのです。高校一年生としての普通の学校生活を送ることはできませんでしたが、長い入院生活を経験したおかげで、私にはかなりの忍耐力が付き、それは受験においても大きく役立ちました。悔いのない人生を送りたいのなら、忍耐力は極めて重要です。恐らく私のような経験をしてきた人は数少ないでしょうから、このような経験や、自分の研鑽してきた能力を活かし、自分なりの社会貢献の形を、生涯をかけて模索し続けたいと考えています。

黒田奨学会の研修会を通じて、様々なバックグラウンドを持った方々と出会い、関係を深め、互

いに高めあうことを楽しみにしております。今後とも、黒田奨学会の一員であるという誇りを持って、日々勉学に励んでいきたいと思っていますので、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

九州工業大学 情報工学部 寺元 一耕



久留米工業高等専門学校を卒業し、九州工業大学 情報工学部に編入学した寺元と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と名誉ある瑞藤会の一員となれたこと、大変

光栄に思うと共にこれから飛び込む新しい環境の中で自分の力の持てる限り精一杯頑張っていこうと決意を固めることができました。

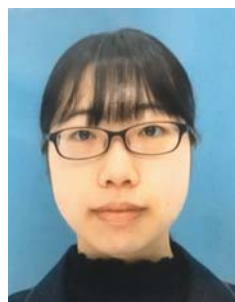
現在私は生命化学情報工学科という学科に所属しており、ここでは医療と情報を組み合わせた分野の研究が行われています。この分野にはこれまで、コンピュータの性能の限界により理論はあるが実現不可能であった研究が数多くありました。しかし、近年の情報技術の発達により少しずつ理論だけでなく具現化が可能な研究が増えていています。私はそのような医療と情報の分野の最先端で研究を行い、人々が病気に苦しむことなく安心して生きていける社会を作ることに関わりながら貢献できるようになりたいと考えています。

この原稿を執筆している時点で既に大学での授業は始まっているのですが、高専で私が専攻していたのは電気電子であるため、これまで化学や生物分野に触れる機会があまりなく、正直授業に付いていくのがやっとな状態です。しかし、新たに触れる遺伝子や化学反応などの概念は生命の神秘に触れていることを感じられ、学ぶこと自体に高揚感を覚えます。新たなことを学ぶこと、新たな人と出会うこと、新たな環境に飛び込むこと。それら全ての刺激が精力的に日々を送る糧となり、高専時代よりも生活にメリハリがついたように思います。このように新しい環境に飛び込む手助けをしてくれた黒田奨学会に感謝すると共に、頂いた機会を無駄にすることなく様々なことに興味を持って取り組んでいきたいと思っています。

最後に、まだ至らぬ点が多々ありご迷惑をおかけするかもしれませんが、先輩方・理事の皆様に

は厳しくご指導いただけると幸いです。

福岡女子大学国際文理学部国際教養学科 泊 沙也佳



福岡中央高校を卒業し、この春より福岡女子大学国際文理学部国際教養学科に進学することになりました。泊紗也佳と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。高

い志を持つ先輩方や同学年の仲間との交流を通じ、社会貢献のあり方について学んでいきたいと思っています。

私は国際的な視点から日本の女性が活躍できる社会について学びたいと考え、福岡女子大学を進学先に選びました。きっかけは高校の家庭科の授業で、世界の女性の年齢別就業率について学んだことです。出産年齢においても高い就業率を維持している国があることを知り、衝撃を受けました。日本では、出産により一度職を離れる女性が多いという問題があります。そのため、他の国々と日本とでは女性を取り巻く社会環境にどのような違いがあるのかを学びたいと考えるようになりました。私が所属する国際教養学科では幅広い分野の授業を自分の興味に応じて選択できることから、ジェンダーに関する科目だけでなく法学やSDGsの授業などからも女性の社会的立場について考えていけたらと思っています。この過程で、複雑な問題を様々な視点から考え抜く力を養っていききたいです。またグループワークやプレゼンテーションを通じて自分の考えをきちんとアウトプットできるよう練習を積んでいきたいと思っています。

大学は寮やサークル、ボランティア活動など自分の知見を広げられる機会がたくさんあります。4年間はあっという間だと思うので、やりたいと思ったこと、学びたいと思ったことには思い切ってチャレンジしていきたいです。

最後に、未熟な面も多々ありますが、黒田奨学会の名に恥じぬよう精いっぱい学業に励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部理科一類 仲西 愛貴



今春、東京大学教養学部理科一類に進学いたしました仲西愛貴と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。黒田奨学会および瑞藤会の一員となれたことを誇らしく感じると共にその名に恥じぬよう精進し、社会に貢献できる人材になりたいと思っています。

私は、将来研究職に就き生体内の情報を解析する研究等に携わりたいと考えており、大学3年生以降の後期課程では理学部生物情報科学科への進学を希望しています。癌や遺伝子疾患のメカニズムを解明することで予防や治療に関する研究を促進させることができます。生物情報科学は生体のもつ膨大な情報を現在目覚ましい進歩を遂げている情報科学の観点から迅速に解読し、分子レベルの部分構造とダイナミックな全体との繋がりを明らかにする研究分野であり、近年新たに興った学問領域です。医学薬学の発展のためにはその基盤となる研究を行う研究者も必要なのではないかと考え、東京大学生物情報科学科への進学を希望するようになりました。この分野の研究に携わることで癌等の病に苦む患者数を1人でも多く減らせるような仕事ができることを望んでいます。

大学生活においては周囲の人々との交流を通し、多角的な視点を身につけたいと考えています。1つの視点にとらわれず、他者の意見を受け入れ1つの事象からより多くの発見ができる人材となるべく努力していきます。また、東京大学では1,2年次教養学部生として様々な分野について学び、その後進学する学部を選ぶ事ができるため、1つの道に限定することなく複数のアプローチから自分の目標の達成および社会貢献を目指していこうと思います。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに改めて深く感謝申し上げます。研修会では活躍されている先輩方との交流を通し、見識を深めていきたいと考えています。至らぬ点も多々あると存じますが、社会に貢献できるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

九州大学工学部Ⅲ群 中村 航



宗像高等学校を卒業し、この春、九州大学工学部Ⅲ群に進学する中村航と申します。この度は黒田奨学会の奨学生にご採用いただき誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思うとともに、各方面で活躍されている先輩方と交流できることを誇りに感じております。今後は黒田奨学会及び瑞藤会の一員であることを自覚し、社会に貢献できる人材になるべく日々精進していく所存です。

私は宇宙分野に興味があり、Ⅲ群に含まれる四つの学科群の中でも航空宇宙工学科に進み専門的知識を身につけ、宇宙開発のコスト削減につながる研究をしたいと考えています。日本の宇宙産業は大国である米国やロシアに比べて遅れをとっており、国際的な競争力があまり高くないのが現状です。その原因の一つとなるのが宇宙産業に対する予算の格差です。宇宙ビジネスの展開により世界で宇宙産業の立ち位置が国家主導型から民間主導型に変遷する一方で、我が日本国では官需依存体質が強く民間移行が進んでいません。そこで私はドローンを用いた宇宙探査を可能にし、宇宙開発の大幅なコスト削減を実現することで日本の宇宙産業をより活発にしたいと考えています。

私は宇宙分野に興味があり、Ⅲ群に含まれる四つの学科群の中でも航空宇宙工学科に進み専門的知識を身につけ、宇宙開発のコスト削減につながる研究をしたいと考えています。日本の宇宙産業は大国である米国やロシアに比べて遅れをとっており、国際的な競争力があまり高くないのが現状です。その原因の一つとなるのが宇宙産業に対する予算の格差です。宇宙ビジネスの展開により世界で宇宙産業の立ち位置が国家主導型から民間主導型に変遷する一方で、我が日本国では官需依存体質が強く民間移行が進んでいません。そこで私はドローンを用いた宇宙探査を可能にし、宇宙開発の大幅なコスト削減を実現することで日本の宇宙産業をより活発にしたいと考えています。

先日行われた奨学会の入学式での先輩方のお話の中で研究発表会が自分の視野を広げてくれると伺いました。黒田奨学会では自分の分野だけでなく、他の分野の研究発表も拝聴できるという非常に貴重な機会が設けられているのでその機会を無駄にすることなく、自分の研究に活かしていきます。

また、黒田奨学会には私と同じように宇宙分野の研究を志す同士や実際に宇宙分野で活躍されている先輩方も多くいらっしゃると思うので研修会などを通しての交流を大切にし、絆を深めていきたいと思っています。

最後に、まだ至らない点も多くあり、先輩方や理事の方々にはご迷惑をおかけすると思いますが黒田奨学会の奨学生として尽力して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

早稲田大学文化構想学部 永松 由羅



福岡高等学校を卒業し、この春より早稲田大学文化構想学部に進学いたしました、永松由羅と申します。この度は、名誉ある黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員になることができたことを大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。また、様々な方面で活躍されている先輩方や意識の高いほかの奨学生の皆さんとの交流を大切に、刺激を受けて、さらに成長できるよう日々精進してまいります。

私は、現在停滞している日本の経済成長の改善のために、グローバルで活躍できる人材の育成という観点から貢献したいと考えております。高校時代、私はイギリス研修に参加し、日本大使館の大使の方をはじめとして、実際にグローバルで活躍されている方々のお話を聞く機会がありました。その中で、他国に比べてグローバルで活躍する日本人が少ない理由に、日本の社会構造や、教育方法が関係していると感じました。そのため、私は、文化構想学部の6つの論系の中でも社会構造論系に入り、日本の社会構造が経済にどのような影響を与えているのかについて、深く学んでいきたいと思っております。さらには、幅広く学問を取り扱うという学部の特徴を活かして、人材育成の手段となるICTや、教育学などについても、積極的に学んでいきたいと考えています。

先日、私は早稲田大学国際学生寮に入寮し、留学生や意識の高い学生との交流を通して、日々刺激を受けています。寮生活を続けていく中で、言語だけでなく、多様性の理解についての学びを得られると考えています。さらに、寮内で行われるグローバル人材育成のためのプログラムにも参加し、毎日が新しい発見であふれています。

これから、大学生活を送っていく中で、常に、挑戦することを恐れないこと、そして周りから学ぶ姿勢を忘れないことを大切にしていきます。そして、黒田奨学生にふさわしい人間になれるように、また、将来社会に貢献できる人間になれるように、勉学に励んでまいります。

まだまだ未熟な私ですが、これから精一杯努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろ

しくお願いいたします。

大分大学医学部医学科 西園 仁尊



この春、嘉穂高等学校を卒業し、大分大学医学部医学科に進学することとなりました西園仁尊と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会および瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思うと共に、身が引き締まる思いでございます。先日挙行された黒田奨学会の入学式では、高い志を持つ新奨学生の方や先輩方のお話を伺うことができました。このような環境に身を置くことができることに感謝するとともに、私もさらなる研鑽を積んでいくことを固く決意しました。

私は将来、医師として救急医療の現場で地域を支えたいと考え大分大学医学部医学科に進学しました。大分大学医学部附属病院は県の中核病院として機能しており、三次救急を対応する高度救命救急センターがあります。また、特色として一年次から早期体験実習があり、いち早く実際の医療に触れることができます。このような環境を活かして、私は医学についての知識を自分のものとし、自らの知見を深めていく所存でございます。そして培った知識と技術を用いて地域の救急医療の最前線で活躍できる人材になりたいと考えています。

また、私は大学生活を送っていく中で大切にしたいことがあります。それは、様々な分野に興味関心を持ち経験を積むことと、多くの人と交流を深めることです。医療現場では医師一人ではなく、看護師や技師など様々な人と連携を図りながらチームで医療を提供します。また、いろいろな考えや背景を持つ患者との対話も必要となります。そのため、世の中についてよく知ること、上手なコミュニケーション能力を身に着けることは必要不可欠です。常日頃からこのことを心にとめて大学生活を送り、地域医療を支える医療人に必要となる能力を磨いていきたいと考えています。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに深く感謝申し上げます。大学生活や奨学会の活動を通して、高

い志を持つ奨学生や先輩方と切磋琢磨し、目標に向かって一層努力を重ねていきたいと考えています。いたらない点多々あると存じますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

早稲田大学文化構想学部 松尾 珠



この春、筑紫丘高校を卒業し早稲田大学・文化構想学部に進学いたしました、松尾珠と申します。大学に入学してから早くも一月が過ぎ、新しい環境にもやっと慣れてきました。現在、大学では言語や国際問題、ジェンダー論など他分野を横断的に学んでおり、二年次から自分の興味関心に合わせた分野に進むための準備をしている段階です。

私は将来、観光業・地域復興に関わり、社会に貢献していきたいと考えています。

私は将来、観光業・地域復興に関わり、社会に貢献していきたいと考えています。

現在日本では、東京や京都などのいわゆる観光名所といわれる地域における観光業は非常に盛んである一方、観光資源となりうる魅力あるにもかかわらず、過疎化が進み伝統文化・伝統芸能の存続が難しくなっている地域が多くあります。

そのような地域の魅力を再発見し、SNS などを通じて企業や観光客を呼び込むことで、観光業や地域産業を活性化させ、社会全体の雇用確保、経済発展に繋げることができると考えています。

ただし、実際、観光客の方々がどこに魅力を感じるかを知るためには外国の方々とは積極的に交流し新たな視点を得ることが必要です。早稲田大学では学生のための留学・言語学習に力を入れています。こうした恵まれた環境を十分に生かし、観光業にかかわる地域学や社会学の分野の学習に加えて、留学や海外での活動などにも自分から積極的に挑戦し大学生活で少しでも多くの経験と知識を得られるよう努力していきたいと思ひます。

最後になりましたが、この度は新たに黒田奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となり、多方面で活躍なさっている先輩方と繋がりをもつ機会をいただけたこと、嬉しく、誇らしい気持ちでいっぱいです。また、奨学生の名に恥じない、将来社会に貢献できる人材になれるよう日々精進していく所存です。至らない点も多くあるとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

京都大学工学部地球工学科 森田 一揮



この春、筑紫丘高校を卒業し、京都大学工学部地球工学科に進学しました、森田一揮と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会の一員となったことを大変誇りに感じています。

これからの大学生活、また、卒業後も通して勉学に励み、社会に貢献できる人材になれるよう精進することを強く決意しました。

私は幼少期から魚の生態、特に深海魚などに興味を持っており、海洋について調べていくうちに、地球最後のフロンティアと言われる深海や、そこに眠る海洋資源について興味を持つようになりました。海洋資源やその供給のコストを削減し、先進国だけでなく、発電を化石燃料に依存する傾向にある発展途上国でも利用しやすくすることで世界の温暖化ガスの排出を減らし、環境汚染を食い止めるための開発・研究に携わります。現在、世界全体で解決すべき課題の一つとして、石炭、石油などを燃やすことで発生する温室効果ガスによる地球温暖化が挙げられます。そのような状況で、特に先進国は環境への影響が少ない資源に目をつけ、そのうちの一つに海洋資源があります。しかしながら、海洋資源の発掘に関する効率的な技術は現在も充実しておらず、莫大なコストがかかること、また、採取の過程でかえって多くの温室効果ガスを排出してしまうことなどが理由で資源の採取が進んでいません。二酸化炭素排出量が少ない海底資源を開発することは地球温暖化を防ぐことにつながるため、海に囲まれた国である日本が牽引することができる海底資源の分野の研究者として日本だけでなく、世界に貢献したいと考えています。

また、私は高校生の頃より声楽に取り組んでおり、日本を含む様々な国の歌曲を歌ってきました。その中で、各国の地理的、歴史的な特徴、また、国民の人柄などが曲や歌詞に表れていると感じるよ

うになりました。例えば国歌なども、内紛や戦争の名残が残っている欧米の国歌、国家の安寧と平穏を願う君が代のような国歌があります。これからも、勉学とともに音楽を通じて世界の国の文化の違いを学び、自分でも日本の文化を積極的に発信していくことで、国際的な交流も行っていきたいと考えています。

九州大学工学部・九州沖縄9高専 連携教育プログラム 山福 桜綺



久留米工業高等専門学校 制御情報工学科を卒業し、九州大学工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム(以降連携プログラムと省略)に進学いたしました山福桜綺と申します。これは2年前に開始した新制度で、久留米工業高等専門学校専攻科 機械・電気システム工学専攻と九州大学工学部融合基礎工学科の双方に所属・卒業することが出来るプログラムです。この度は黒田奨学会の奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。長い歴史と伝統のある黒田奨学会の奨学生および瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思っております。

私は高等専門学校に在籍した5年間で制御情報工学に関する知識を学習しました。制御工学や情報セキュリティ、データベースやソフトウェア工学等の多岐にわたる科目の中で、1番興味を持ったのはプログラミングの応用科目である機械学習でした。機械学習とは、人工知能(AI)を実現するためのデータ分析技術の1つであり、コンピューターに明示的な指示を与えなくても、大量のデータをもとに自動的に反復学習する技術を指します。人類が1956年から開発を行ってきたAIは、現在も成長を重ねています。1950年代～1960年代の第1次AIブームでは、迷路や数学の定理の証明のような簡単な問題を解く「推論」や「探索」の研究が進みました。1980年代の第2次AIブームではコンピューターに「知識」を入れたエキスパートシステムやchatボットが開発されました。2010年からは第3次AIブームに突入し、ビックデータを基に人工知能が自ら知識を獲得する機械学習が実用化されています。現在使用されているAIには、静止画や動画などを分析して含まれて

いる情報を認識する画像認識、音声データを分析して情報を抽出する音声認識、文章の意味を読み取ったり学習データを参考にして新たな文章を生成したりする自然言語処理等があります。

このように成長してきたAIを宇宙ロケット産業に応用することで、人工衛星を沢山打ち上げることが私の夢です。日本が打ち上げている人工衛星は衛星放送、気象情報の把握に使用されています。世界ではさらに位置情報の測位や、惑星探査、軍事目的の偵察衛星や宇宙望遠鏡などの用途で衛星が打ち上げられています。様々な用途の人工衛星を沢山打ち上げることによって、日本国内で使用する衛星データが漏洩しないよう、ICT分野に使用するデータ収集を全て自国で行える国にしたいと考えています。衛星データの取得、使用を日本国内で完結することで、クローズドな情報管理を行うことが可能となり、位置情報やインターネット接続情報等のプライバシーに関わる重要なビックデータが世界各国へ情報漏洩することを防ぐことに繋がるでしょう。これにより、いずれは情報セキュリティに強い国を実現できると信じています。

九州大学に進学後、今まで学んできた制御情報工学を活かして、イオンエンジンや核融合エンジンに関する研究を行いたいと思っております。至らない点もあるかと思いますが、黒田奨学会の一員としてより一層勉学に励みたいと考えていますので、これから何卒よろしくお願い申し上げます。

九州大学医学部医学科 八波 りお



筑紫丘高等学校を卒業し、今春、九州大学医学部医学科に進学しました、八波りお(やつなみりお)と申します。この度、この誇りある黒田奨学会・瑞藤会の一員となれたことを大変栄誉なことと考えております。ありがとうございます。先日、奨学会の入学式に参加し、多方面で活躍されている先輩方や、様々な分野に興味を持つ他の新奨学生の方々のお話を聞き、身の引き締まる思いです。

私は将来、研究と臨床の双方で活躍できる産婦人科医になることを目指しています。産婦人科の中でも特に周産期医療に関心があり、その分野で

命の誕生を支え、社会に貢献していきたいと考えています。科学技術の発達によって治療法の幅も広がってきている中で、患者さんに多様な選択肢を示しながら、患者さんに寄り添った診療をすることができる医師になりたいです。

研究分野では、母体の健康と胎児の発達の関係についての研究、また、再生医療等の最先端の技術を産婦人科分野に応用する研究にも興味を持っております。研究成果を通して、広く社会に貢献していきたいと考えています。

大学生活では、勉学に励むほか、留学等にも積極的に挑戦して、海外の医療制度や文化を学びたいです。実際に海外に行き、日本との価値観の違いを体感することで身につく多角的な考え方は、将来医師となった時にも生かしていけると思います。大学での活動を通して視野を広げ、将来、患者さんの様々な考え方を聴き、患者さんの支えとなるような医師になりたいです。

最後になりますが、黒田奨学生に採用していただいたこと、改めて感謝申し上げます。大学では、幼い頃から興味を持っていた、生命の誕生や人の成長過程についての学問を追究し、社会に貢献できる医師となれるよう日々精進していく所存です。精一杯努力いたしますので、よろしくお願いします。

い問いに対して一人の生徒が意見を述べると、その意見に対して非難が集まるといった事案は、実際に私の身の回りでも起きていました。私は、学校という場が、自分の考えを自分自身の言葉で表現することや、他人の意見を受け入れ、尊重し、視野を広げることで、生徒一人ひとりが自分の可能性を広げることができる、そのような場であるべきだと考えます。もし、他人から非難されることで自分に自信を失い、他人を非難することで他の意見を受け入れることが出来なくなれば、その生徒に人間的な成長は見込めません。そのため私は、人間一人ひとりの価値観に優劣や間違いなどは無いということを生徒に発信し続けて、多様性を認め合い、自他を尊重し、自分の可能性を引き出し、いずれ日本各地やその枠組みを超えて世界に羽ばたくことができる、人間性の豊かな人材を育成することで社会に貢献していく所存でございます。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに深く御礼申し上げます。まだまだ未熟な点もあると存じますが、研修会などを通じて、自分なりに成長していきたいと思えます。また、これからの4年間の大学生活が実りあるものになるよう様々なことに挑戦していきたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

福岡教育大学中等教育教員養成課程 中等教育プログラム理科専攻 山口 凌汰



この春、福岡県立城南高等学校を卒業し、福岡教育大学中等教育教員養成課程中等教育プログラム理科専攻に進学することになりました山口凌汰と申します。この度は伝統ある黒田奨学会の奨学生として採用していただき、

誠にありがとうございます。黒田奨学会の奨学生に選ばれたことは大変栄誉なことだと感じると同時に、黒田奨学生としての自覚を持ち、その名に恥じぬような行動に努めて参りたいと思えます。

近年、「多様化」という言葉を多く耳にすることが増えてきました。その名の通り、十人十色の個性を持つ人々が共生していくような社会になってきつつあります。しかし、今日の多くの学生というのは自分との違いに敏感である傾向にあります。例えば、道徳のような授業の中で答えがな

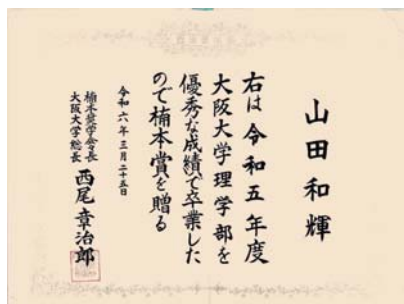
トピックス

●大阪大学卒業の山田和輝さん、楠本賞を受賞！！

この度、大阪大学理学部物理学科を卒業し、楠本賞を受賞いたしました。楠本賞は大阪大学各学科の首席に与えられる賞であり、理学部物理学科を首席で卒業できたことを誇りに思っています。また、この栄誉ある賞を受賞できたのは、黒田奨学生としての学びに励んだ成果の賜物です。

黒田奨学生の皆さんは非常に優秀であり、自らが掲げた目標に向かって日々努力されていると感じます。そのような中、他の黒田奨学生に引けをとらないか不安に思いながら4年前の黒田奨学会の入学式に臨んだことを今でも覚えています。おそらく、皆さんが学部1年生だったときも同じように感じたことでしょう。そして他の黒田奨学生に負けじと、4年間の大学生活を楽しみながら勉学に励んでまいりました。その結果、首席の成績で卒業することができ、結果として多くの方々に喜んでいただきました。

私はこの春から大阪大学大学院に進学し、さらに研究を進めていきます。そして大学院を卒業した後は、黒田奨学会の卒業生として立派に社会貢献を果たしていくつもりです。これからも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



奨学生 近況報告

神戸大学に復学した高田早紀さんが、海外経験を通じて感じたことを報告してくれました。

●「自分の気持ちに従い動いた1年間」

神戸大学国際人間科学部 4年
高田 早紀

休学中の出来事について会報誌に寄稿してほしいとのご依頼があった。内容は、オーストラリアでのワーキングホリデーの体験と、インド旅行について、2000字程度。ご依頼を頂いて、もちろんやらせていただくと意気込んでいたが、実際に何を書こうかと考え始めると驚くほどに何を書けばいいのかわからなくなってしまい、あれこれ悩んでいるうちに締め切りが近づいてしまった。オーストラリアに行ったのはもう1年も前のことだし、インドで過ごした1か月も、見るものすべてが新鮮で刺激的で、毎日いろんなことを感じながら生活していたことは確かだが、そのとき感じていたことをフレッシュなかんじでつづるには、もう時間が経ちすぎている。そのときのことを回想しながら読み応えのある文章を書く才は残念ながら私にはないし、これを読む方々が「おーなるほど、彼女は休学期間に色んな発見をし、有意義な時間を過ごしたんだな」と思うようなお利口な文章も、書けない。どうしたものか。面白くもない自分語りしかできないが、とりあえず何か書いてみよう。

そこで、まずは私がなぜ休学という決断をしたのかについて、書こうと思う。休学を決めたのは今から1年ちょっと前、大学3年生の2月だった。就職活動の自己アピール競争のような空気感に疲れた私は、将来何がしたいのか、自分に何ができるのか、全くわからなくなってしまった。昔から物事の意味ばかり考えてしまう性格で、自分の心が動かないもの、



南インド、ボンディチェリーにて

意味を見出せないことに対しては、頑張れない。そんな性格が、就職活動という重大な局面においても現れてしまい、この会社を受ける意味、リクルートスーツを着る意味、ガクチカなんてものを話す意味、自分が今ここに存在している意味、これから生きていく意味…とにかく色んな意味について考えすぎて、あらゆる決断に際し逡巡していた。そして目の前のことにシンプルに取り組めない自分、実直に前に進めない自分が嫌でたまらなかった。休学は、そんな迷いの中でのやや後ろ向きな決断だった。とにかく自分のこれからについて、ゆっくりと考える時間が必要だった。

休学期間の最初の1か月は、特に生産性のあることをしていない。人生で初めて、何にも所属しないありのままの自分になり、何にも追われない生活が始まった。自分の自由の可能性にわくわくすると同時に、限られた時間の中で、何か将来の役に立つこと、生産性のあることをしなくてはという焦燥感にも駆られていた。

そんな中で、とにかくまずは「何もしない」ということを実践してみた。毎日何にも追われることなく、散歩をしたり、近所の川辺に座って水の音や鳥の声に耳を澄ませてみたり、本を読んだり、好きなことを勉強したり、楽器を弾いたり、日記を書いたりして過ごしていた。この間、生産性のあることは大してしていないが、不思議と一日一日を無為に過ごしたという感覚は全くなく、むしろ自分の人生の一部分を、今までよりも丁寧に紡いだという実感すらあった。何にも追われず、何もしないということを実践してみると、自分の核の部分にある色やかたち、自分の本当の気持ち、ありのままの姿が少しずつ見えてくる。

何もしないということは自分にとって、不必要なものへの注意を向けることをやめる営みだった。それは、何かときっぱりと決別するというのではなく、注意を別の場所に向け、拡大増幅させ、その鋭さに磨きをかける能力を養うためのトレーニングだと感じる。それを実践することで、自分は何が好きで何が嫌いなのか、自分の気持ちに敏感になる。自分の本当の気持ちに気づくことができる。

“何もしない”を実践してみたあとは、自分が情熱を持って取り組めるもの、わくわくすること、生きるうえでの信念のようなものを、注意散漫に色んなことにトライしてみることによって探してきた。オーストラリアやインドに行ったのも、なぜ行ったのかと問われると今はもうよく覚えていない。ただなんとなく、自分の気持ちがそうさせたといしか言いようがないのだ。

インドで一つ、今でも忘れられない印象深い出来事があった。ポンディチェリーという、旧フランス領の街でのことだ。インドはとにかく交通量が多い。歩道なんてものはほぼ存在しないし横断歩道もないので、渡り方を一歩間違えればバイクと接触しそうになる。インドに来てから10日は経過していたが、この交通量の多さにははまだ慣れないなあと思いながら道を渡ろうと左右を見渡しているとき、バイク同士の接触事故を目の当たりにした。驚いてかけよる。どちらも40代くらいのおじさん。バイクから身を投げ出されたようだったが、二人とも大したけがはなさそう。私の関心は、インド人が事故をどのように処理するのかに向いた。バイクから身を投げ出され、3メートルほど離れた場所にいたおじさん2人は、バイクを起こしお互いに駆け寄る。さあ喧嘩でも始まるのか？と若干ハラハラしながら様子を見守っていたが、なんとおじさん2人は、「まったく困るよー(笑)」と言わんばかりのへらへらとした笑顔でお互いの方をポン、と叩き、そのままバイクに乗って去って行った。彼らにとってはこの程度の事故は日常茶飯事なのだろうか。それにしても日本では考えられない光景で、このときなんだか、自分の常識の範囲がぐいっと広がったかんじがした。

この、「自分の常識の範囲を広げていく経験」を、私はもっとしなければいけないと強く思う。

振り返ってみれば、自分の気持ち、ただそれだけに従って行動した1年間だった。その中で生まれた「自分はこうに生きたい」「これだけは譲れない」といった信念みたいなもの、これは自分の使命だと感じるくらい情熱を持って取り組めるものを私はこれからも大切にして生きていきたい。ただそれだけを見て自分が今やるべきことに真剣に取り組むことが、めぐりめぐって誰かの生きる活力になるのだと信じている。

文章を書こうとするといつも抽象的なことしか言えないのだが、これを読んで何かを感じた人が一人でもいれば幸いである。自分なんかアドバイスじみたことをするのも恐縮だが、「何をすればいいのかわからない」「情熱を持てるものがない」「すべてのことに理由が欲しく、意味ばかり考えてしまう」もしこう思っている大学生の方がいれば、まずは何もしない、とにかく自分の気持ちに従う、ということを実践してみてもはどうだろうか。批判や質問、お叱りなども、お待ちしております。こんな拙文を最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



タンジャブールのプリハディスバラ寺院

行 事 報 告

●令和5年度 奨学生卒業記念会

平成6年3月20日、黒田奨学会 令和5年度卒業記念会ならびに瑞藤会総会をホテルオークラ福岡にて執り行いました。

卒業式は、卒業生17名(学部生11名、院生7名)をはじめ現役奨学生、奨学会役員、事務局員含めて総勢76名が参加しました。式は理事長挨拶で始まり、黒田長高総裁の祝辞と記念品贈呈、そして卒業生各人からのお礼の言葉が披露され、厳粛ななかにも爽やかさをもって終了しました。

続いて開かれた瑞藤会総会是新原理事の乾杯挨拶で始まり、普段は、研修会以外ではあまり接する機会がない奨学生先輩・後輩の良い懇親の場となりました。歓談の合間には、東京から駆けつけてくれたOGの真野いずみさん(令和4年東京大学卒業、国土交通省勤務)が直近の先輩として祝辞を述べてくれました。また、卒業生たちは、長高総裁のお席に次々と伺い、感謝の気持ちと今後の抱負を報告するなど和やかなうちに進み、最後は同じくOGの笠場評議員から激励の言葉を頂戴し午後8時に終了しました。

総会の後には、同ホテルで伊達理事長主催の二次会が催され、長高様ご夫妻や奨学会役員、卒業生の多くが参加し大いに盛り上がりました。

(重藤)





令和5年度 博士・修士課程修了生および学士課程卒業生

(令和6年3月31日現在)

名 前	大 学	学 部	進 路
井 手 那 幹	東京	人文	明治安田生命保険相互会社就職
小山田 莉 緒	九州M	工	福岡市役所就職
東 遼 晴	長岡技術M	工	株式会社牧野フライス製作所就職
大 串 裕 紀	東京	理	東京大学大学院数理科学研究科修士課程進学
加 治 遼	一橋	法	一橋大学大学院法学修士課程進学
蒲 池 海 斗	東京	教育	東京大学大学院 教育学専攻臨床心理学コース修士課程進学
権 藤 洸 人	京都	理	京都大学大学院理学研究科地球惑星科学科修士課程進学
佐々木 綾 太	慶應	理工	東京大学大学院電気系工学専攻修士課程進学
徳 村 夏 輝	京都	工	株式会社COLIN就職
松 田 仁	東京	工	東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻修士課程進学
實 渕 有 佑	東京工業	工	東京工業大学大学院経営工学系修士課程進学
山 田 和 輝	大阪	理	大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程進学
山 根 奏太郎	東工M	理	日油株式会社就職
檜木野 介 子	熊本	工	熊本大学大学院自然科学教育部物質材料工学専攻修士課程進学
藤 本 茉 奈	九州特M	薬	中外製薬株式会社就職
松 井 優 樹	九州特M	農	サントリーホールディングス株式会社就職
庄 田 朋 申	九州特M	経	九州大学大学院経済システム専攻博士課程進学(飛び級)

●瑞藤会総会記念講演

令和5年度瑞藤会総会ならびに卒業式式典に先立って、認定NPO法人ロシナンテスの川原尚行理事長をお招きし、記念講演会を同会場にて開催しました。

川原氏は、九州大学医学部、同大学院修了後、医務官として外務省に入省。アフリカの日本大使館勤務の経験を経て、スーダンやザンビアの無医村地区での診療活動をはじめ、診療所建設、給水所整備、学校建設などのインフラ整備にも精力的に活動・貢献されています。

講演では、学生時代の思いや経験、活動のご苦勞などを語っていただきました。「人のために生きよ」という子供の頃受けた教えを大切に、厳しい環境のなか、様々な活動を情熱持って実践されていることに感銘を受けました。30分という限られた時間でしたが、聴講した新入および先輩奨学生たちも熱心に聞き入り、大変ためになったのではないかと思います。



川原尚行氏プロフィール

1965年福岡県北九州市生まれ。1984年福岡県立小倉高等学校卒。

1992年九州大学医学部を卒業後、九州大学第二外科（現：消化器・総合外科）に入局し同外科および広島赤十字・原爆病院で研修を行う。

九州大学大学院修了ののち、1998年外務省入省。在タンザニア日本大使館に二等書記官兼医務官として着任。その後ロンドン大学（イギリス）で熱帯医学を履修し、2002年在スーダン日本大使館に一等書記官兼医務官として着任。2005年1月、外務省を退職し同年4月よりスーダン国内での医療活動を開始。翌2006年5月、北九州市に「NPO法人ロシナンテス」を設立。同年8月スーダン共和国政府より国際NGOとして正式に登録される。

●令和6年度 奨学生入学式

令和6年度の奨学生入学式は令和6年3月20日(水・祝日)14時より、ホテルオークラ福岡3Fオークルームにて行いました。

今年度の新入生は、学部新入生が27名、学部から引き続き修士課程、博士課程に進んだ学生10名、特定枠修士生8名の計45名とかつてない大人数となりました。

総裁の黒田長高様・由佳子様ご夫妻にもご出席いただき、役職員合わせて総勢65名が出席しました。式典では理事長挨拶、総裁挨拶に続いて、先輩を代表して、東京大学教育学部を卒業し、引き続き同学部臨床心理学コースに進む蒲池海斗さんから温かくも頼もしい歓迎の言葉が新入生に送られました。その後、新入生が各自1分程度の自己紹介。皆緊張した様子でしたが、それぞれが黒田奨学生となった喜びと決意を力強く披露してくれました。

大人数の新入生とあって、会の進行も時間配分に気を使いましたが、皆さんの協力のもと15時45分に予定通り終了することができました。

(重藤)



令和6年度 新奨学生
学部生

氏 名	出 身 校	大 学
石 倉 美 来	福岡	九州大学 農学部 生物資源環境学科
宇田川 樟	筑紫丘	慶應大学 商学部
浦 田 弘 仁	城南	九州大学 経済学部 経済・経営学科
大 田 徠 瑛	九州国際大学附属	大阪大学 文学部 人文学科
河 野 雅 宏	福岡	九州大学 工学部 III群
金 本 准	福岡	大阪大学 経済学部 経済経営学科
木 原 帆 夏	筑紫女学園	佐賀大学 医学部 医学科
下 田 凜 歩	明治学園	東京理科大学 理学部 物理学科
末 永 乙 羽	福岡	九州大学 芸術工学部 音響設計学科
田 内 裕 丸	宗像	九州大学 工学部 VI群
多 田 正 瀧	福岡	福岡教育大学 教育学部 中等英語学科
田 上 心 咲	春日	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科
田 中 琉 惺	修猷館	東京大学 文科II類
高 宮 諒	東筑	京都大学 文学部 人文学科
津 村 有	修猷館	東京大学 理科I類
泊 紗也佳	福岡中央	福岡女子大学 国際文理学部 国際教養学科
中 村 航	宗像	九州大学 工学部 航空宇宙工学科
仲 西 愛 貴	筑紫丘	東京大学 理科I類
永 松 由 羅	福岡	早稲田大学 文化構想学部 文化構想学科
西 園 仁 尊	嘉穂	大分大学 医学部 医学科
松 尾 珠	筑紫丘	早稲田大学 文化構想学部 文科構想学科
森 田 一 揮	筑紫丘	京都大学 工学部 地球工学科
八 波 り お	筑紫丘	九州大学 医学部 医学科
山 口 凌 汰	城南	福岡教育大学 教育学部 中等理科学科
庄 子 綾 乃	北九州高専	千葉大学 工学部 総合工学科
寺 元 一 耕	久留米高専	九州工業大学 情報工学部 生命化学情報工学科
山 福 桜 綺	久留米高専	九州大学 工学部 融合基礎工学科

大学院生（学部・修士より継続支給および大学院特定枠新奨学生）

岡 林 竜一郎	SM1	九州大学 工学府 航空宇宙工学専攻
小 野 菜 月	SM1	九州大学 生物資源環境科学府 資源生物科学専攻
神 田 楓 華	SM1	九州大学 人間環境学府 空間システム専攻
瀬 川 智 皓	SM1	九州大学 薬学府 創薬科学科
戸 田 遥 香	SM1	九州大学 経済学府 経済システム専攻

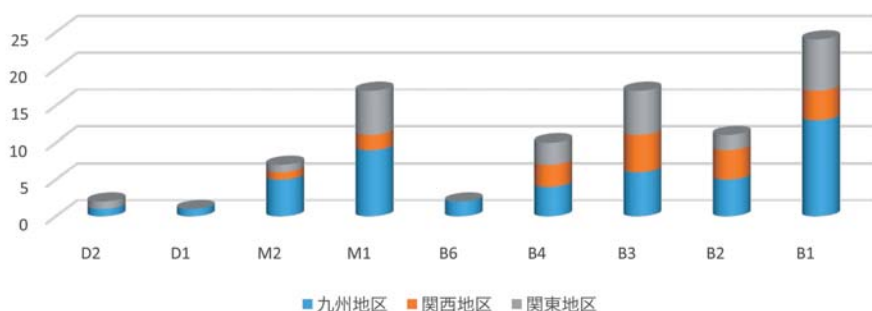
中 川 さくら	SM1	九州大学 工学府 応用化学専攻
三 上 紗 奈	SM1	九州工業大学 情報工学府 情報創成工学専攻
米 山 玲 緒	SM1	九州大学 地球社会総合科学府 地球社会総合科学専攻
大 串 裕 紀	M1	東京大学大学院 数理科学研究科
加 治 遼	M1	一橋大学大学院 西洋法制史専攻
蒲 池 海 斗	M1	東京大学大学院 教育学専攻臨床心理学コース
権 藤 洸 人	M1	京都大学大学院 理学研究科 地球惑星科学専攻
佐々木 綾 太	M1	東京大学大学院 工学系研究科
松 田 仁	M1	東京大学大学院 工学系研究科
實 渕 有 佑	M1	東京工業大学大学院 工学院
山 田 和 輝	M1	大阪大学大学院 理学研究科 物理学専攻
植木野 介 子	M1	熊本大学大学院 自然科学教育部
庄 田 朋 申	SD1	九州大学大学院 経済学府 経済システム専攻

令和6年度 奨学生地区別分布

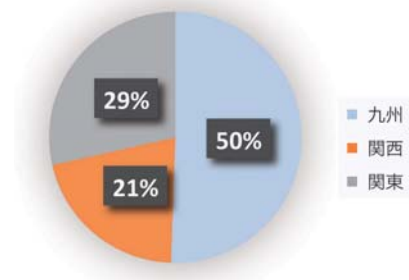
※ S = 特定枠

学 年		九州地区	関西地区	関東地区	全地区
博士課程	D2	0	0	1	1
	SD2	1	0	0	1
	SD1	1	0	0	1
修士課程	M2	2	1	1	4
	SM2	3	0	0	3
	M1	1	2	6	9
	SM1	8	0	0	8
	計	16	3	8	27
学 部	B6	2	0	0	2
	B5	0	0	0	0
	B4	4	3	3	10
	B3	6	5	6	17
	B2	5	4	2	11
	B1	13	4	7	24
	計	30	16	18	64
合 計		46	19	26	91

学年別分布



地区別分布



●令和5年度 関東地区研修会 令和5年12月2－3日

令和5年度関東地区研修会が12月2日(土)、3日(日)の2日間にわたってホテル・グランドヒル市ヶ谷で行われました。

初日の2日は研修会に先立って、青山霊園に集合し、黒田家代々のお墓にお参りした後すがすがしい気持ちでホテルに移動しました。

研修では、初日が13時半から7名、2日目が9時40分から13名の研究発表を実施。各自、発表10分、質疑応答10分の限られた時間内でしたが、活発な質疑が交わされ中身の濃い研修会となりました。

また、2日の夕刻からは黒田長高総裁ご夫妻出席のもと、瑞藤会ミニ総会を研修会に併せて開催しました。総会は、長高様のご挨拶に続いてOBで牛島総合法律事務所パートナーの黒木資浩様による記念講演の後、懇親会へと進み、OB・OGの方々13名の参加も含めて総勢43名での賑やか、かつ有意義な交流会となりました。

(重藤)



研修会に参加しての感想

慶應義塾大学法学部政治学科2年 大場 雅翔

12月2日及び3日に行われた関東地区研修会・発表会に参加させていただきました。昨年はオンラインでの開催でしたが、今年は4年ぶりに対面で開催され、他の奨学生やOBの方々と直接お会いできたのは大変嬉しく思います。今年も昨年同様に、文理問わず個性的な研究・発表を聞くことができ、非常に良い刺激を受けました。こうした多種多様な学問を研究する人が集まって発表し、議論を深めていくというのは中々ない機会なので、有意義な時間になったと思います。

今回の研修会で感じたことは、対面とオンラインでのプレゼンの違いです。やはり聴衆が目の前にいるのといないのでは、発表の雰囲気が大きく

異なるように感じました。カメラに向かって発表するときとは違い、マイク、視線、呼びかけ、ジェスチャー、ポインターなど表現の仕方が様々で、より熱量が伝わるための工夫がたくさんされており参考になりました。具体的には、あえてマイクを使わないことや聴衆に質問を投げかけることといったテクニックを今後使っていきたいです。そして、今回は従来とは違うポインターを新しく用意していただき、今後プレゼンの主流となるであろう機器を使って発表できたのは貴重な経験となりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

また、昨年以上にスライド資料のレベルが高かったと感じました。私が印象に残っているのは、方倉さんのロケットが画面の外に飛んでいくようなアニメーションや東さんの3Dモデルで、会場の皆を釘付けにしていました。研修会では、他

分野の研究を聞くこと以外に、資料の作り方で学ぶことも多く、良いところを吸収していくことができればさらにレベルの高い発表につながると思います。私自身も今回資料を作成するにあたって、様々な技法を知ることができたので、来年は小田部先生に褒めていただけるような資料を目指してまいります。

もう一つ感じたのは、質疑応答の難しさです。私は質問に答える際に、何度か言葉に詰まってしまう場面がありました。それは、質問の意図をくみ取って回答を簡潔にまとめる作業に慣れていないことが原因だと考えています。ゼミで議論をしていくと慣れていくものかもしれませんが、その経験が十分でないうちは質問例をあげたり、あえて質問が出てくるような資料を作ったりすることで対応しなければならないと学びました。

今回の研修会では多くの質問が飛び交い、内容の濃い研修会になったと実感しています。研修会を通して得た学びを今後活かしていき、成長した姿を来年の研修会で見せることができるように日々精進してまいります。最後に、研修会の準備・運営に携わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

東京大学工学部物理工学科4年 松田 仁

自身4回目となる関東地区研修会は現地開催となった。私が奨学生になってから参加した黒田奨学会の行事で、ほぼ初の完全現地開催といっても過言ではない。長らくオンライン開催が続いたことも影響して、現地対面開催のオンラインにはない良さを非常に体感した。

現地開催の良さについて書く前に、この関東地区研修会そのものの良さについて書く。この関東地区研修会の良さとは、「自分の専門分野以外のプレゼンテーションを聞くことができる」ことに加え、「自分の専門分野以外の聴衆にプレゼンテーションを行うことができる」ことであろう。学年が上がり専門的な研究に取り組むにつれ、同様の研究を行っている人のプレゼンを聞く、あるいは同様の研究を行っている人へプレゼンすることばかりになる。私自身も今年度(2023年度)から研究室に所属しているが、同じ学科の大学教員あるいは学生のプレゼンを聞く、または同じ学科の大学教員あるいは学生へプレゼンをする機会が多かった。しかしながらこの研修会には、文理問わず様々な分野の方が集まっている。そのような参加者のプレゼンを聞くことは自らの知見を広げることに繋がるし、この研修会でプレゼンを行うことでアウトリーチ活動の能力を高めることができるだろう。

次に、現地開催の良さについて述べる。今回の関東地区研修会で感じた現地開催の良さは、なによりも「参加者と直に話すことができる」、「参加者の様子を直に見ることができる」ことではないだろうか。休憩時間などに雑談や質疑応答の続きを行なうことは、オンライン開催では難しい。また、発表者の身振り手振りや、他の参加者がメモをとりながらプレゼンを聞いている姿なども、オンライン開催では見るのできない部分であろう。関東地区研修会がもともと持っている良さは、現地開催になってより一層すばらしいものになったと感じた。

続いて、今回の関東地区研修会で印象に残ったプレゼンを僭越ながら幾つか挙げる。東遼晴さんのプレゼンは研究背景・目的から実験結果、そして最後のまとめまで非常に流れが分かりやすかった。また、スライドに挿入されていたアニメーションによって、より一層理解しやすいプレゼンになっていた。

渡邊蒼生さんのプレゼンは留学について話す特色のある内容で、興味深いものだった。私の専門分野である物理とは対極にあるような内容で、まさに関東地区研修会の良さである「自分の専門分野以外のプレゼンテーションを聞くことができる」ことを体現したプレゼンであった。

来年度には修士1年となり、言わば“ベテラン”の枠に含められるような学年になってしまった。学年に恥じないような能力を身につけられるよう、今後も精進していく所存である。

東京大学経済学部2年 広田 瑞貴

12月2日から3日にかけて、黒田奨学会の関東地区発表会に参加しました。コロナ禍が始まって以来はじめてオフラインで行われた研究発表会で、昨年度に入会した私にとっては、初の対面での奨学会のイベントとなりました。難しい時期のなかで、こうした機会を準備してくださった奨学会理事・スタッフの皆さまに深く感謝申し上げます。

私の発表課題は、以前に大学の授業の中で発見し、すでにレポートとして形にしたことのあるものであったので、スライドの準備は比較的スムーズに進めることができました。一方で、発表内容の整理や、口頭発表の練習は十分ではなく、伝えたいことを過不足なく伝えきることは難しかったように感じます。10分という限られた時間の中で、どの情報を優先的に説明するべきか、より精密に検討すべきでした。また、自分のPC以外で発表する可能性について想定しておらず、書式崩れの対策ができていなかったことも反省点です。

ほかの学生の皆さんの発表からは、内容と形式の両面で数多くの発見がありました。私はこれまで、スライドは簡潔にまとめ、説明でその不足を補うのが美德だと考えがちでした。しかし、むしろスライドで十分すぎる量の情報を示し、口頭ではその中で本質的なポイントをかいつまんで説明する、という手法をとっていた方倉さんや蒲池さんなどの発表には大きな刺激を受けました。厳しい時間制約のもとではこうした方法はとても合理的に感じられます。特に専門性の高い内容の場合には、議論の厳密性を損なわずに、直感的に伝わる発表をするためにはこの方法が最良であると感じました。

また、下川さんの「指腹」のようなユニークなテーマは、聞いている人を引き込ませるもので、問題設定の巧みさを感じました。實測さんがテーマとしたベイズ推定の戦略的意思決定への応用は、公認会計士資格取得にむけた学習をしている私の関心にも通じる点があります。統計学は私が今 semester に受講している必修科目なのですが、なかなか興味がもてず、このままでは期末に危険な目に遇うところだったので、この発表を聞くことができたのは私自身にとってもありがたい機会になりました。稲富さんの大規模言語モデル等による土砂災害リスクの評価についての発表は、言語モデルという一見関係がなさそうなツールを利用して、災害被害の抑止というバイタルな成果を生み出せる可能性を示している点で、とても魅力的で意義深い発表でした。

紙幅の都合上簡単に触れるにとどめますが、ミニ総会も卒業生の方と有意義なお話をする機会となり、社会で活躍することの魅力と厳しさを同時に感じさせられました。

私の昨年と今年の発表のテーマは、それぞれ「世代のアイデンティティと価値観」、「クリエイティブな都市のための包摂性」という非常に教養学部的(?)なもので、その分内容はあらゆる人に伝わりやすかったように思います。来年からは、晴れて教養学部生から経済学部生になりますので、専門性のある経済学のトピックを扱いたいと思います。同時に、経済学が明日の生活にも影響を及ぼすような現象や制度を対象にしているということに注意を払って、皆さんに身近に捉えていただけるような発表をできるよう努力します。

東京大学教養学部前期課程理科3類2年 山中 心源

新型コロナウイルス感染症の流行もある程度収まり、令和5年度の関東地区研修会は対面にて行われました。12月2日と3日の2日にわたって開催された研修会では、20人もの奨学生が、法学・

文化学・心理学・経済学・工学・生化学など多岐にわたり、高度な内容の発表を行いました。

私は昨年奨学生となった身ですので、関東地区の研修会に参加するのは2度目となります。しかし、私にとって今年の研修会は対面で行われた初の研修会となりました。そこでは、同期を含めたくさんの奨学生が見事な発表を行い、活発に意見を交換する様子を間近で見ることができました。私自身も、自然と影響を受けて、去年よりも活発に質問をし、他の奨学生と交流をすることができたように感じています。

私自身の発表はマウスの精巣決定因子に関する紹介でした。しかしながら、スライドの体裁において誤りがあったり、短い時間に内容を詰め込んでしまったり、とトピックの面白さを最大限伝えることができなかったと反省をしております。来年の研修会では、構成にも気をつけた発表を行い、生化学・医学の面白さを伝えていきたいと考えております。

交流という面で特に心に残っているのは、片倉さんの発表です。片倉さんの発表は、ロケットの飛ぶ仕組みと構造という題で、運動量保存則等の物理法則を用いて、適切なロケットの構造を説明するものでした。片倉さんの発表においては、タイトルのスライドも素晴らしく、アニメーションを用いた興味を惹くスライドとなっていました。片倉さんとは休み時間にお話をさせていただき、先述のアニメーションのスライドの説明を受けたり、発表内容に関する質問などをしたりすることができました。

また、先輩方の発表は内容もより高度な上、スライドにも個々人の創意工夫が表れていて、多くが洗練されたものとなっていました。東さんの発表は、トンボの飛行メカニズムの解明についてのものでした。工学的な分析の手法や実験モデルについてのお話は、昨年の研修会でも印象深く覚えていました。しかし、昨年と異なり、今年は質問をするなどしてより理解を深めることができたように感じています。また、スライド中で用いられていた実験系の3D動画は、大変完成度の高いもので感銘を受けました。

研修会1日目の後にはミニ総会も行われました。黒田長高・由佳子様ご夫妻や、OB/OGの皆様にお会いすることができ、貴重なお話をたくさん伺うことができました。今後も、このような機会に積極的に参加できればと思います。

今年の研修会では、先輩方が作り上げた活発な雰囲気の中、自分もその輪に加わり様々な話を伺うことができました。来年以降の研修会では、自分自身が活発な雰囲気を作り上げることができるよう、日頃の研鑽を積んでいきたいと考えております。

公益財団法人黒田奨学会への寄付御礼

公益財団法人黒田奨学会は、旧筑前藩主・黒田家から出資された基金によって1915年より108年間にわたり、旧筑前領内出身の学生に対して奨学金の給付を続けてまいりました。

奨学金給付の原資は、黒田家から寄贈された基金及び不動産の資産運用益はもちろんのこと、奨学生OB・OG、黒田家関係者、当奨学会事業への理解者など多くの皆様からの寄付金により成り立っており、頂いた寄付金は奨学会の基本財産に繰り入れて基本財産の充実を図りながら、その運用益を奨学金に充ててまいりました。

令和5年度においてはお陰様で133名の方々から計679万8千円と多額のご寄付を頂くことができました。

当奨学会は奨学金を支給するだけでなく、奨学生による研究発表等の研修にも力を入れ、また特に援助を必要とする学生への入学準備金や、海外で学びたいという奨学生への海外留学支援金などの援助も行っており、これらの奨学事業には皆様からの浄財が大きく寄与していることは言うまでもありません。

黒田奨学会の理念にご賛同いただき、奨学事業の充実のためにご寄付頂きました皆様には心よりお礼もうしあげます。誠にありがとうございました。

黒田奨学会出身の郷土の若者達が将来、世界や日本の社会で広く活躍するための投資とお考え頂き、今後も引き続き、寄付金募集へのご理解・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

令和5年度奨学会基金への寄贈者（敬称略、順不同）

令和5年4月1日～令和6年3月31日 （ ）は黒田奨学生OB、OGの卒業年

中 田 蓮太郎 (R5)	井 原 恒 治	藤 本 裕 人
石 津 宗 久 (H元)	野田部 哲 也	藤 井 恵 (S52)
今 藤 恵 子	石 原 美 里 (H26)	木 村 菊 子
今 藤 久 夫	古 川 公 毅 (S42)	内 田 悠 太 (H30)
木 村 菊 子	矢 ケ 部 稜 (R5)	林 久美子
吉 田 隆 治	中 村 和 明 (S50)	川 崎 千鶴代
菊 池 武 之 (S35)	大 庭 康 裕	山 田 公 彌
久保田 康 史 (S43)	増 本 和 幸	稲 富 翔 伍 現奨学生
瀬 口 友 樹 (H28)	永 田 桂 子 (S52)	市 原 出 (S56)
山 下 謙	石 橋 良 造 (S58)	北 嶋 繁 孝 (S52)
東 寺 裕 康 (S61)	大 長 寺	中 山 博 子 (S40)
小 倉 菜 穂 (R5)	吉 安 晴 馬 (R4)	森 高 英 樹 (H5)
伴 曜 价	衛 藤 博 之 (S44)	小田部 裕 子
井ノ口 正 浩	石 井 光太郎 (S59)	大 野 裕 子
井ノ口 功 基 (H28)	井 本 英 樹	大 野 高 義
中 川 久 幸	野 崎 雄 介 (H10)	大 野 真 実
三 角 啓 介 (H19)	深 見 正 仁 (S60)	大 野 真由子
中 村 義 則 (S61)	加 治 遼 現奨学生	大 野 真理子
奈良崎 修 二 (S55)	棕 本 泰 子 (S55)	伴 曜 价
井 上 信 一 (H17)	吉 村 壮 平 (H14)	稲 富 嘉 博
佐 田 考 史 (H9)	上 妻 幸 博	稲 富 満 江
牧 原 康 隆 (S51)	上 妻 諒 子 (H28)	糸 長 潤 平 (R2)
中 原 誠 也 (S58)	平 地 康 一 (H20)	前 田 拓 也 (H7)
佐々木 綾 太 現奨学生	原 口 義 基 (R4)	小山田 莉 緒 (R6)
牧 原 咲 子	田 中 龍 一 (R2)	東 遼 晴 (R6)
平 井 雄 二	古 賀 和 之	東 寺 裕 康 (S61)
中 村 紗 綾 子	今 村 啓 太 (H24)	
佐 田 裕 (S46)	冬 至 嶺 子	その他 匿名希望51名

令和6年度 黒田奨学会行事予定

(令和6年4月1日現在)

月	日	曜日	時間	内 容
4	10	水		4月分奨学金給付
	12	金		「進級を証明できる書類」提出締切 (※2年生以上、締切厳守)
	14	日		光雲神社春季大祭
5	10	金		5月分奨学金給付
6	8	土	09:00	(前期) 第1回九州地区研修会・面談
	10	月		6月分奨学金給付
			19:00	第1回定例理事会
	21	金		瑞藤会会報96号発行
	28	金	19:00	定時評議員会 (議題：決算報告)
7	6	土	09:00	(前期) 第2回九州地区研修会
	10	水		7月分奨学金給付
8	2	金	11:00	長政公402回忌法要 (崇福寺)
	9	金		8月分奨学金給付
	13	火		事務局夏季休暇 (13～16日)
9	7	土		関西地区研修会 (大阪ガーデンパレス)
	9	月		2025年一般募集募集要項その他書類一式各校発送
				前期成績表・報告書・GPA提出 ※9/9受付開始～9/20締切厳守
	10	火		9月分奨学金給付
	18	水		九大・九工大特定枠募集推薦依頼書発送
10	5	土	09:00	(後期) 第1回九州地区研修会
	6	日		光雲神社秋季大祭
	10	木		10月分奨学金給付
11	8	金		11月分奨学金給付
	9	土	09:00	(後期) 第2回九州地区研修会
12	7	土		関東地区研修会 (グラントヒル市ヶ谷)
	8	日		
	10	火		12月分奨学金給付
	18	水		瑞藤会会報97号発行
	30	月		事務局冬季休暇 (30～1/3日)
2025.1	6	月		事務局業務開始日
	10	金		1月分奨学金給付
	17	金		2026年度九大・九工大 大学院特定枠学内申請締切
	22	金		第109期瑞藤会総会案内発送
	31	金		2026年度新奨学生 (一般募集) 願書受付締切 (必着)
2	10	月		2月分奨学金給付
			19:00	2025年度新奨学生 (一般募集) 書類選考会
	12	水		忠之・光之・治 公法要 (東長寺) 忠之公373回忌
	21	金		2025年度新奨学生 (一般募集) 書類選考結果発送
	28	金	09:00	2025年度新奨学生 (一般募集) 面接選考会
3	1	土	09:00	2025年度新奨学生 (一般募集) 面接選考会
	2	日		2025年度新奨学生 (特定枠募集) 面接選考会
	3	月	19:00	第2回定例理事会 (議題：奨学生採用内定、2026年度予算)
	5	水		2025年度新奨学生 (一般募集、特定枠募集) 可否通知発送
	10	月		3月分奨学金給付
	14	金		後期成績表・報告書・GPA提出 ※3/14受付開始～3/28締切厳守
	19	水		如水公422回忌法要 (崇福寺)
	20	木/祝	13:00	春分の日 2026年度奨学生総会・入学式
			17:00	2025年度瑞藤会総会・卒業記念会

関東地区研修会・発表抄録集

関東地区研修会 令和5年12月2-3日

12月2日 発表会Ⅰ部

1. 法意識から見る日韓の「すれ違い」

慶應義塾大学法学部政治学科2年
大場 雅翔

今年に入り、「戦後最悪」と言われた状況から脱しつつある日韓関係であるが、複雑で難儀な問題を抱える両国が今後、協力関係を築いていくために、「法意識」の観点から日韓の「すれ違い」による対立の要因を探った。その結果、機能主義と当為主義の衝突というメンタリティーの違いによって、お互いに嫌悪感を抱いているということが判明した。1998年の日韓パートナーシップ宣言から25年経った今、日韓関係の在り方を論じる。

2. ロケットの飛ぶ仕組みと構造

東京大学教養学部理科Ⅰ類2年
方倉 颯馬

近年、アルテミス計画など構想中の計画から火星移住といった現実味の薄いものまで、宇宙開発関連の話題を聞くことが多くなった。ただ、移動方法がロケットだという点は、大半に共通している。私たちからしても「ロケットとは何か」の理解が重要になりつつあるということだ。だが、ロケットの飛ぶ仕組みや構造は、同じく空を飛ぶ飛行機とでさえ大きく異なる。飛ぶ仕組みと構造を理解することで、これらの話題を適切に考えられるようになっていただきたい。

3. 国際法における対世的義務への関心の高まりについて

東京大学教養学部(前期課程)文科Ⅰ類2年
小淵 朝陽

対世的義務とは国際共同体全体に対する普遍的義務である。2019年にアフリカに位置する第三国のガンビアが当時ロヒンギャ迫害で問題になったミャンマーを国際司法裁判所に提訴したように、近年、第三国による対世的義務（又は条約当事国間の対世的義務）違反国の提訴が国際裁判にて増加傾向にある。対世的義務及び当事国間対世的義務について概観したのち、この傾向が国際法秩序にどのような影響をもたらしているのか、それら判例を複数検討しつつ考察する。

4. クリエイティブな都市のために―「安心」から「安全」へ

東京大学教養学部文科Ⅱ類2年
広田 瑞貴

本発表では、都市の創造性を高めるための理念的方向性を探る。まず、文化面で発信力をもつ街の例として中野をあげ、その背景に関心や属性の多様性があることを示唆する。さらに、「安心」を目指した再開発の動きを批判的に検討したうえで、多様な人々が主体として自己表現を行い、他のコミュニティと接点をつくりだせるような「安全」な環境がよりクリエイティブな都市を生み出すために必要であることを示す。

5. マウスSry遺伝子について

東京大学教養学部前期課程理科Ⅲ類2年
山中 心源

生物学的性別を決定する要因は何であろう。一般に、ヒトやマウスにおいては、性染色体の組み合わせがXXならばメスに、XYならばオスに分化するとされる。しかし、この世にはXY染色体を持ちながら女性の特徴を示すヒトの症例など、性決定の複雑さを示す例が存在している。そこで今回は、性決定の様式について深く知るために、マウスの精巣決定遺伝子Sryについて2020年にScience誌に掲載された立花誠氏らの論文を中心にまとめる。

6. 21番目のアミノ酸―セレノシステイン

東京大学理科Ⅱ類1年
川上 航平

タンパク質はアミノ酸が連なった構造である。ヒトを含む真核生物でタンパク質を構成するアミノ酸は21種類あるが、その中で唯一、対応するコドンがないのが、システインに似た構造を持つセレノシステイン(Sec)であり、特別の方法でコードされている。その塩基配列を解析すると、Secを含む遺伝子には終止コドンの一つであるUGAが含まれることが分かり、また、さらなる解析により、Secは終止コドンUGAによって一時的に指定されていることが明らかとなっている。

7. 「指腹」の習俗―復讐手段としての切腹

東京大学教養学部文科Ⅲ類1年
下川 哲史

名誉の自殺として讃えられた切腹。その一方で、切腹によって己の切なる要求を通し、遺恨の相手を死に至らしめる復讐の手段「指腹」も中世には存在した。現代人の価値観から見ればたいへん特異なこの習俗を通して、中世人の思考の枠組みを解き明かすとともに、歴史への視座のあり方にも考察を広げたいと思う。この発表では、清水克行教授の講義をもとに、複数の参考資料にあたって研究・考察にあたった。

12月3日 発表会Ⅱ部

1. 文章要約アルゴリズムの比較

東京大学工学部計数工学科3年
仲西 優貴

長い文章の内容をより早く把握するためには、より精度が高く、より分かりやすい要約方法が求められる。pythonのライブラリを用いて作成した各種要約アルゴリズムを実行し比較を行った結果、それぞれに長所短所があるが、OpenAIのLLM（大規模言語モデル）であるGPTが最も良い精度であることが分かった。しかしながら、文字数や生成時間などの制約があり、文章の長さに応じてpythonのライブラリのpysummarizationといった、アルゴリズム使い分けが望ましいと考えられる。

2. 円管内の流動特性と伝熱・物質移動のアナロジー

東京大学工学部応用科学科3年
山本 颯真

円管内流動特性と化学プロセス設計で重要な意義を持つ各無次元数の関係を理解することを目的とし、円管内の水を対象にした各無次元数の実験値と、流動特性から求められる理論式との関係を調べた。その結果、それら実験値は各理論式とよく一致しており、円管内の物質移動特性は理論による予測が有効であることが分かった。これら、円管内の伝熱・物質移動といった流動特性のアナロジーによる予測は、化学工場などの大規模系の設計への応用が期待できるものである。

3. 数学におけるパーシスタントホモロジー

東京大学理学部数学科4年
大串 裕紀

データの”形”に着目した位相的データ解析という分野において、形を効率よく計算する手法の1つにパーシスタントホモロジー(以下、PH)がある。PHは純数学的に定まる概念であり、応用面だけでなく数学的観点においても様々な手法で研究されている。今回はPHの基本的構造とその結果の中でも、特にPHがデータのノイズに強い概念であることを示す安定性定理について説明し、さらにPHの応用例についても自分の力の及ぶ限り、紹介したい。

4. Weichbildについて

一橋大学法学部4年
加治 遼

中世の北部や中部ドイツにおける都市法の呼称であったWeichbild（ヴァイヒビルト）であるが、西洋法制史における都市法研究の重要性にもかかわらず、あまり十分な研究が蓄積されてこなかった。一方で近年、ドイツだけでなく東欧への影響という観点から関心が向けられている。本発表では、Weichbildの概要、通史、そして最新の研究状況を原文の資料等を交えながら分析を行う。また、それら結果を踏まえ、修士課程での研究計画について簡潔に説明を行う。

5. 大学生の具体的な家事・育児関与イメージの実態と関連要因の検討

東京大学教育学部教育心理学コース4年
蒲池 海斗

現在、家事・育児の男女分担意識は高いものの、子育ての分担比率は未だ母親の方が高い。その要因として、先行研究からは性役割観などの個人要因、労働環境や時間的制約などの環境要因が考えられる。環境要因に影響を与える介入として育休の取得促進が考えられるが、取得者の傾向からその促進には出産前の家事・育児意識の向上も必要となる。そこで、本研究では、大学生を対象に家事・育児関与のイメージと関連要因を検討することで、家事・育児意識向上のための方法について探る。

6. イオントラップによる分散量子コンピュータに向けた新たなコネクティビティの形成

慶應義塾大学理工学部電気情報工学科4年
佐々木 綾太

量子コンピュータの手法の一つであるイオントラップには、内部状態と外部状態という2種類の量子ビットがある。計算精度に優れたイオントラップであるが、量子ビット数の拡張性に難があるため、分散コンピューティングによって拡張性を向上する研究が進められている。しかしながら、それらはどれも内部状態を用いるものであることから、私のチームは外部状態間に量子もつれを生成することにより、新たなコネクティビティを実現する研究を行っている。

7. 原子層物質とは

東京大学工学部物理工学科4年
松田 仁

原子数個分の厚みしかない物質を原子層物質と呼ぶ。炭素原子が結びついた素材で炭素原子1層分の厚みを持つグラフェンがゼロハンテープを用いて2004年に単離されて以降、同様の手法を用いた新規物質開拓が進んでいる。原子層物質は低次元化に伴う対称性の変化や終端の出現により、通常の巨視的な固体とは異なる物性を示すことが知られ、研究者の関心を集めている。今回の発表では、私の卒業研究のテーマである原子層物質について簡単に紹介する。

8. ベイズ推定を用いた競争市場構造分析モデル

東京工業大学工学院経営工学系4年
實淵 有佑

本発表では、企業やブランドの各マーケティング戦略が及ぼす市場全体のダイナミクスの解明を目的とした、ベイズ推定を用いた競争市場構造の分析モデルを紹介する。このモデルは、価格戦略やプロモーション戦略が自他ブランドにどのような影響をもたらすかを数値化し、市場の競合関係を明らかにすることで、企業の戦略的な意思決定の助けとなる。実例を踏まえながら、理論から戦略の評価までの流れを分かりやすく解説する。

9. 3人のDNAをもつ赤ちゃん

東京農工大学大学院 工学府生命工学専攻 修士1年
朽網 桃香

今年の5月、イギリスで3人のDNAをもつ赤ちゃんの誕生がニュースで報じられた。ミトコンドリアDNAに変異を持つ母親から生まれる子供は、遺伝によりミトコンドリア病を患う可能性が高く、またその根本的な治療法がないために、その防止法として健康な卵子のミトコンドリアを使う技術が採られた結果、両親以外のDNAを持つ赤ちゃん誕生となったのである。このような、ミトコンドリア病の遺伝を断ち切ることができる方法について原理・技術的面から説明したい。

10. FW-MAVを用いたトンボの飛行メカニズムの解明

長岡技術科学大学 大学院工学研究科機械工学分野 修士2年
東 遼晴

ハエやトンボなどの昆虫は飛行効率が高いことから近年ではその飛行原理を模倣した小型ドローンであるFW-MAV (Flapping-Wing Micro Air Vehicle) の開発が行われている。しかし、昆虫の羽ばたき運動は複雑なため、未だにその飛行原理は明らかではない。本研究では、トンボの翼構成を模倣し、位相差（前翼と後翼の運動周期のずれ）を30°ごとに変更できるFW-MAVを製作した。そのMAVの推力や流れ場を計測することで、位相差の違いによる空力性能の変化を明らかにした。

11. ベニバナ黄色色素成分サフロールイエローAの全合成を目指して

東京工業大学理学院化学系化学コース 修士2年
山根 奏太郎

私は現在、全合成という研究をしています。全合成とは、複雑な天然物を入手容易で適切な化合物から合成することを指します。身近な例で例えると、家を建てることに似ています。建たい家を決め、木材やコンクリートのような適切な材料を決めて、設計図を作成して組み立てていくことを、より小さなスケールの原子の世界で行なっています。今回は、私が現在取り組んでいるサフロールイエローAという天然物の合成研究について、詳しく述べたいと思います。

12. 大規模言語モデルと画像セグメンテーションによる土砂災害危険性評価手法

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻建設マネジメント・開発システム研究室 博士1年
稲富 翔伍

災害が頻発化・激甚化する中、迅速に応急復旧作業を行う「協働AIロボット群」の開発が期待される。河道閉塞現場では拡大崩壊等で二次災害が生じる可能性があり、無人建機はこれを自動回避する必要があるが、災害現場のAI学習データは充分ではない。本研究では土砂災害現場の画像情報を定型文化し、土砂災害についてFine-Tuningされた大規模言語モデル(LLM)に入力することで危険性を判断するフローを構築した。画像AI 技術と、言語的に蓄積された知識を導入するLLM の活用例を示す。

13. オーストラリアでの10ヶ月間の留学を終えて

東京大学法学部4年
渡邊 蒼生

全学交換留学制度を利用して2023年2月から11月までの10ヶ月間、オーストラリアの首都キャンベラにあるオーストラリア国立大学 (ANU) に留学をした。国際的なキャリアを志しつつも、これまでほとんど海外旅行や海外在住の経験がなかった私にとってこの留学は自分の視野を大きく広げる機会となった。日々の学習と寮での生活、歌舞伎一座ANU Za Kabukiでの活動と集大成となった年間公演、長期休みを利用したオーストラリア国内や東南アジアでの旅行等について報告する。

編集後記

令和6年度瑞藤会会報第96号をお届けいたします。前任の岡本順子先生のあとを受けて編集を担当したものの、全く初めての経験で要領を得ず、本当に発行できるのか心もとない状況でしたが、巻頭の黒田長高総裁の近況報告をはじめ寄稿いただいた皆様や誠文社印刷様のご協力を得て無事発行できたことに感謝申し上げます。

ところで出来栄は・・・？ 只々、皆様ご一読をと願うばかりです。

伊達理事長が、今年の春の叙勲で「旭日双光章」を受章されました。これは、福岡県公安委員長を務められるなど、社会公共福祉への功労が認められたもので、当奨学会にとっても名誉なことだと思います。本当は、会報本文でご紹介したかったのですが、理事長が固辞されたので、ご存じない方のために編集後記でこっそりお知らせいたします。

瑞藤会会報は、黒田奨学会ならびに瑞藤会の今をお知らせするものですが、会員相互のコミュニケーションの場でもあります。今回寄稿いただいた北嶋繁孝先生の「世のため人のため」という想いが、若い後輩たちに必ず伝わるものと思います。今後も会員の皆様の声をお届けしたいと思いますので、先輩、現役問わず、どしどしご寄稿いただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

(重藤)

瑞藤会会報 第96号

発行日 令和6年6月24日

発 行 公益財団法人 黒田奨学会
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目2-11
富士ビル赤坂7階E号室
TEL 092-712-0597 FAX 092-714-7304
E-mail:office@kuroda-s.or.jp
:info@kuroda-s.or.jp (奨学生用)
<http://www.kuroda-s.or.jp>

責任者 伊達 健太郎

印刷所 誠文社印刷